

b) 河川・ダム湖

平成 20 年度の春季から冬季にかけて実施した河川の調査結果について、調査時期ごとに概要を整理した結果を表-6.6.1.20に、調査地点ごとに概要を整理した結果を表-6.6.1.21に示します。また、各調査地点における調査結果を図-6.6.1.32～図-6.6.1.38に示します。

なお、調査対象河川のうち、汀間川（RW-12、13）は環境基準の A 類型に指定されていますが、その他の河川には環境基準の類型指定はなされていません。ここでは、環境基準が定められている項目については、汀間川（RW-12、13）も含めて河川 A 類型の環境基準との比較を行いました。

(ア) pH

pH は 6.8～9.4 の範囲内にあり、大浦湾奥部に流入する杉田川（RW-8）及び大浦川（RW-9）の調査地点で 8.5 を超える値が確認されましたが、その他の調査地点では河川 A 類型の環境基準（6.5～8.5）を満たしていました。

(イ) BOD

BOD は大浦湾奥部に流入する楚久川（RW-20）では河川 A 類型の環境基準（2mg/L 以下）を超える値が確認されましたが、その他の調査地点の多くは定量下限値（0.5mg/L）未満でした。

(ウ) COD

COD は 0.7～7.8mg/L の範囲内にあり、調査時期を通じて RW-2（松田布流石川）、RW-14（ギキ川）、RW-20（楚久川）などで比較的高い傾向にありました。その他の調査地点における COD は概ね 5mg/L 以下でした。

(エ) DO

DO は 0.5 未満～12mg/L の範囲内にあり、夏季及び秋季に低い傾向にありました。調査地点別にみると RW-2（松田布流石川）や RW-20（楚久川）で 2mg/L 未満と顕著に低い値が確認されました。

(オ) 大腸菌群数

大腸菌群数はほとんどの調査地点で河川 A 類型の環境基準（1,000MPN/100mL）を超える値が確認され、特に RW-20（楚久川）で高い傾向にありました。

(カ) 全窒素

全窒素は 0.11～5.46mg/L の範囲内にあり、RW-14（ギキ川）や RW-20（楚久

川) で比較的高い値が確認されましたが、その他の調査地点では調査時期を通じて概ね 1mg/L 未満でした。

(キ) 全燐

全燐は 0.01~0.3mg/L の範囲内にあり、調査時期を通じて RW-1 (宜野座福地川) 及び RW-20 (楚久川) で比較的高い値が確認されましたが、その他の調査地点では調査時期を通じて概ね 0.1mg/L 未満でした。

(ク) 全亜鉛

全亜鉛は、調査時期を通じてほとんどの調査地点で定量下限値 (0.005mg/L) 未満で、検出された調査地点においても 0.01mg/L 前後となっており、すべての調査地点で環境基準 (0.03mg/L) を満たしていません。

表-6.6.1.20 各調査時期における河川・ダム湖の水の汚れ調査結果概要 (平成 20 年度)

項目	春季 (H20年4月25日)	夏季 (H20年7月22日)	秋季 (H20年10月25日)	冬季 (H20年12月3日)	参考 (環境基準)
水温(°C)	22.8 (20.0~26.0)	31.2 (26.5~35.6)	24.8 (22.4~27.0)	19.7 (17.2~23.0)	—
pH	7.8 (7.1~9.0)	7.6 (7.0~9.4)	7.4 (6.8~8.0)	7.7 (7.2~8.3)	6.5~8.5
BOD(mg/L)	0.9 (<0.5~4.7)	0.7 (<0.5~3.7)	0.6 (<0.5~2.2)	0.6 (<0.5~1.2)	2mg/L 以下
COD(mg/L)	3.3 (0.9~7.2)	4.6 (2.3~7.8)	4.4 (1.7~7.3)	3.3 (0.7~6.7)	—
DO(mg/L)	7.8 (1.5~11.6)	6.1 (1.5~12.1)	5.3 (<0.5~8.4)	7.5 (2.6~10.8)	7.5mg/L 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	$3.0 \times 10^4$ ( $6.3 \times 10^2 \sim 5.4 \times 10^5$ )	$8.5 \times 10^3$ ( $3.1 \times 10^1 \sim 1.3 \times 10^5$ )	$4.2 \times 10^4$ ( $2.4 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^5$ )	$1.2 \times 10^4$ ( $3.3 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^4$ )	1,000MPN/ 100mL 以下
全窒素(mg/L)	0.61 (0.13~5.46)	0.61 (0.17~4.59)	0.59 (0.13~3.08)	0.55 (0.11~2.86)	—
全燐(mg/L)	0.049 (0.007~0.263)	0.059 (0.010~0.259)	0.057 (0.011~0.294)	0.038 (0.006~0.193)	—
全亜鉛(mg/L)	0.005 (<0.005~0.007)	0.005 (<0.005~0.006)	0.005 (<0.005~0.011)	0.005 (<0.005~0.007)	0.03mg/L 以下

- 注) 1. 表中の値は、表-6.6.1.21に示す全 21 調査地点の平均値 (最小値~最大値) を示します。定量下限値未満の結果を含む場合は、便宜上、定量下限値未満を定量下限値として扱うことにより平均値を算出しました。  
2. 調査対象河川のうち、汀間川 (RW-12,13) は環境基準の A 類型に指定されていますが、その他の河川には環境基準の類型指定はなされていないため、参考として河川 A 類型の環境基準を示しました。

表-6. 6. 1. 21(1) 各調査地点における河川・ダム湖の水の汚れ調査結果概要  
(平成 20 年度)

【水深、水温、pH、BOD、COD】

調査地点	水深 (m)	水温 (°C)	pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)
RW-1	1.54(1.30~1.85)	25.6(21.5~32.0)	7.8(7.5~8.0)	0.8(<0.5~1.3)	2.8(2.2~3.5)
RW-2	0.50(0.02~0.15)	22.5(17.2~27.5)	7.1(6.8~7.3)	0.7(0.6~0.8)	5.2(3.6~7.5)
RW-3	0.15(0.13~0.17)	25.8(20.0~34.0)	7.6(7.4~8.0)	0.5(<0.5~0.6)	4.2(3.9~4.7)
RW-4	1.01(0.90~1.10)	25.7(21.7~33.8)	7.3(7.2~7.4)	0.7(<0.5~0.8)	4.5(3.3~5.5)
RW-5	0.40(0.28~0.48)	27.8(23.0~35.6)	7.7(7.2~8.0)	0.6(<0.5~0.7)	3.3(3.0~3.7)
RW-6	0.29(0.28~0.31)	22.5(18.5~29.0)	7.4(7.3~7.5)	<0.5(<0.5~<0.5)	3.7(2.5~5.5)
RW-7	1.00(0.71~1.22)	26.3(20.5~33.0)	7.3(7.2~7.4)	0.5(<0.5~0.5)	3.7(3.0~4.4)
RW-8	0.07(0.06~0.08)	23.5(18.5~31.5)	8.1(7.7~8.7)	<0.5(<0.5~<0.5)	2.9(2.3~3.7)
RW-9	0.07(0.05~0.09)	24.9(18.5~33.0)	8.6(7.7~9.4)	0.8(<0.5~1.2)	2.4(0.7~5.1)
RW-10	0.65(0.08~2.10)	24.9(19.0~30.0)	7.4(7.2~7.5)	0.7(<0.5~1.0)	3.7(2.9~4.8)
RW-11	0.28(0.09~0.70)	22.7(17.4~28.0)	7.3(7.0~7.5)	0.5(<0.5~0.6)	2.8(2.2~3.5)
RW-12	1.57(1.35~1.80)	24.7(21.5~30.0)	8.1(7.9~8.2)	<0.5(<0.5~<0.5)	1.7(0.9~2.3)
RW-13	0.03(0.02~0.03)	22.4(18.0~26.5)	7.7(7.4~8.1)	0.5(<0.5~0.6)	2.5(1.9~2.9)
RW-14	0.05(0.03~0.07)	23.9(19.3~30.1)	8.2(7.8~8.4)	0.7(<0.5~0.9)	5.6(3.8~7.3)
RW-15	0.14(0.07~0.19)	25.3(21.6~31.5)	8.0(7.9~8.2)	0.8(<0.5~1.3)	4.2(3.0~5.2)
RW-16	0.11(0.07~0.15)	22.6(18.2~29.0)	7.4(7.2~7.7)	0.7(<0.5~1.2)	3.1(2.2~3.8)
RW-17	3.28(2.20~4.10)	25.7(20.5~32.5)	7.3(7.2~7.4)	0.7(<0.5~1.1)	4.6(3.5~5.9)
RW-18	8.04(7.40~8.40)	25.9(20.5~33.0)	7.3(7.1~7.5)	0.6(<0.5~0.7)	4.4(3.2~5.3)
RW-19	8.55(6.70~9.80)	25.7(20.4~32.0)	7.3(7.1~7.7)	0.6(<0.5~0.7)	4.4(4.4~3.3)
RW-20	0.05(0.03~0.07)	24.8(18.8~31.5)	7.6(7.1~8.0)	2.8(<0.5~4.7)	6.9(5.8~7.8)
RW-25	0.18(0.15~0.20)	24.6(18.5~31.5)	7.7(7.5~7.9)	0.5(<0.5~0.6)	5.6(5.0~6.4)

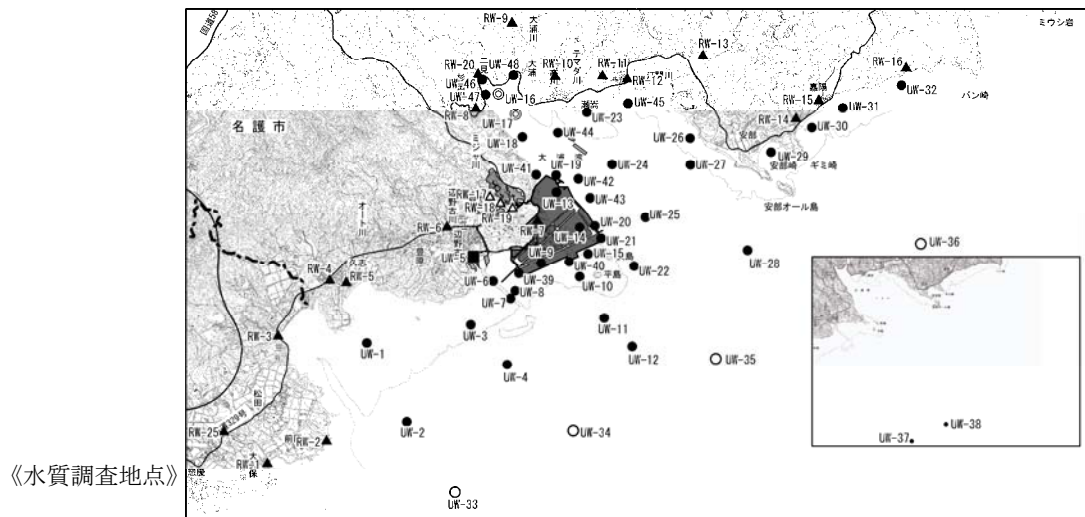


表-6.6.1.21(2) 各調査地点における河川・ダム湖の水の汚れ調査結果概要  
(平成20年度)

【DO、大腸菌群数、全窒素、全燐、全亜鉛】

調査地点	DO (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	全亜鉛 (mg/L)
RW-1	4.4(2.4~6.3)	$1.3 \times 10^3$ ( $1.1 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^3$ )	0.59 (0.45~0.80)	0.151 (0.087~0.195)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-2	1.5(<0.5~2.6)	$5.8 \times 10^3$ ( $2.3 \times 10^2 \sim 1.7 \times 10^4$ )	0.34 (0.25~0.44)	0.042 (0.021~0.084)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-3	8.8(7.7~9.9)	$2.8 \times 10^3$ ( $4.9 \times 10^1 \sim 7.9 \times 10^3$ )	0.52 (0.30~0.71)	0.029 (0.022~0.038)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-4	6.7(4.2~8.7)	$1.7 \times 10^4$ ( $3.3 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^4$ )	0.57 (0.36~0.78)	0.044 (0.040~0.049)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-5	6.5(3.1~9.6)	$9.8 \times 10^3$ ( $1.3 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$ )	0.45 (0.37~0.52)	0.041 (0.031~0.054)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-6	5.7(4.9~7.1)	$2.7 \times 10^4$ ( $9.4 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^4$ )	0.25 (0.21~0.30)	0.022 (0.016~0.032)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-7	7.0(6.2~8.3)	$3.6 \times 10^3$ ( $3.1 \times 10^3 \sim 4.6 \times 10^3$ )	0.24 (0.20~0.27)	0.009 (0.006~0.013)	0.008 (0.006~0.011)
RW-8	7.5(5.5~9.7)	$1.1 \times 10^4$ ( $1.3 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$ )	0.25 (0.21~0.30)	0.014 (0.010~0.015)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-9	10.6(8.4~12.1)	$6.9 \times 10^3$ ( $3.3 \times 10^2 \sim 1.3 \times 10^4$ )	0.71 (0.37~1.17)	0.076 (0.038~0.153)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-10	5.1(3.2~6.7)	$9.2 \times 10^3$ ( $3.3 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$ )	0.22 (0.18~0.24)	0.041 (0.028~0.053)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-11	7.1(5.7~8.7)	$1.3 \times 10^4$ ( $1.1 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$ )	0.56 (0.43~0.66)	0.040 (0.033~0.044)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-12	6.5(5.7~7.4)	$1.2 \times 10^3$ ( $2.3 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^3$ )	0.15 (0.12~0.21)	0.021 (0.015~0.025)	0.005 (<0.005~0.006)
RW-13	7.3(5.7~9.9)	$9.5 \times 10^3$ ( $3.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$ )	0.19 (0.13~0.23)	0.029 (0.022~0.036)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-14	8.4(6.0~9.9)	$9.5 \times 10^3$ ( $3.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$ )	4.00 (2.86~5.46)	0.033 (0.021~0.054)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-15	9.8(7.9~11.6)	$2.8 \times 10^4$ ( $2.8 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^4$ )	0.33 (0.27~0.41)	0.085 (0.052~0.112)	0.005 (<0.005~0.006)
RW-16	7.3(6.0~8.1)	$1.8 \times 10^3$ ( $1.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^3$ )	0.15 (0.11~0.17)	0.048 (0.040~0.054)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-17	6.5(5.5~7.2)	$7.0 \times 10^3$ ( $7.9 \times 10^1 \sim 2.4 \times 10^4$ )	0.29 (0.20~0.35)	0.013 (0.010~0.015)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-18	6.6(5.7~7.3)	$2.3 \times 10^3$ ( $3.3 \times 10^1 \sim 4.9 \times 10^3$ )	0.28 (0.23~0.32)	0.012 (0.010~0.014)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-19	6.1(5.0~7.2)	$2.8 \times 10^3$ ( $3.1 \times 10^1 \sim 4.9 \times 10^3$ )	0.30 (0.25~0.34)	0.017 (0.013~0.024)	<0.005 (<0.005~<0.005)
RW-20	4.3(1.9~7.9)	$3.0 \times 10^5$ ( $2.4 \times 10^4 \sim 5.4 \times 10^5$ )	1.39 (1.20~1.65)	0.252 (0.193~0.294)	0.006 (<0.005~0.007)
RW-25	6.6(4.1~9.0)	$1.3 \times 10^4$ ( $1.7 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$ )	0.63 (0.54~0.70)	0.050 (0.022~0.099)	<0.005 (<0.005~<0.005)

注) 表中の値は、表-6.6.1.20に示した全4調査時期の平均値(最小値~最大値)を示します。定量下限値未満の結果を含む場合は、便宜上、定量下限値未満を定量下限値として扱うことにより平均値を算出しました。

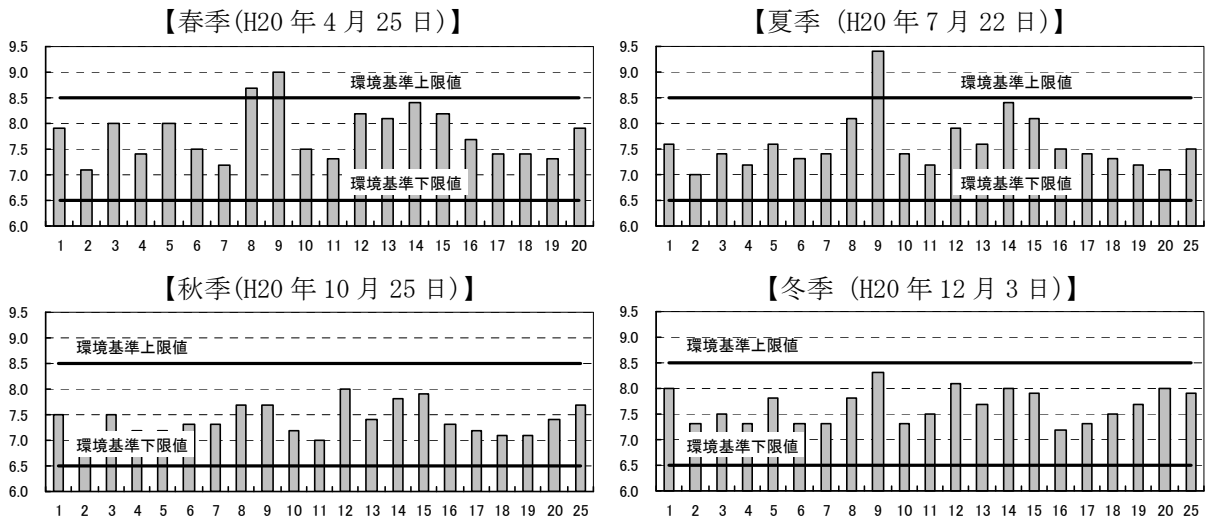


図-6.6.1.32 河川の各調査地点における pH の調査結果 (平成 20 年度)

注) 調査対象河川のうち、汀間川 (RW-12、13) は環境基準の A 類型に指定されていますが、その他の河川では、環境基準の類型指定がなされていないため、参考として河川 A 類型の環境基準を示しました。

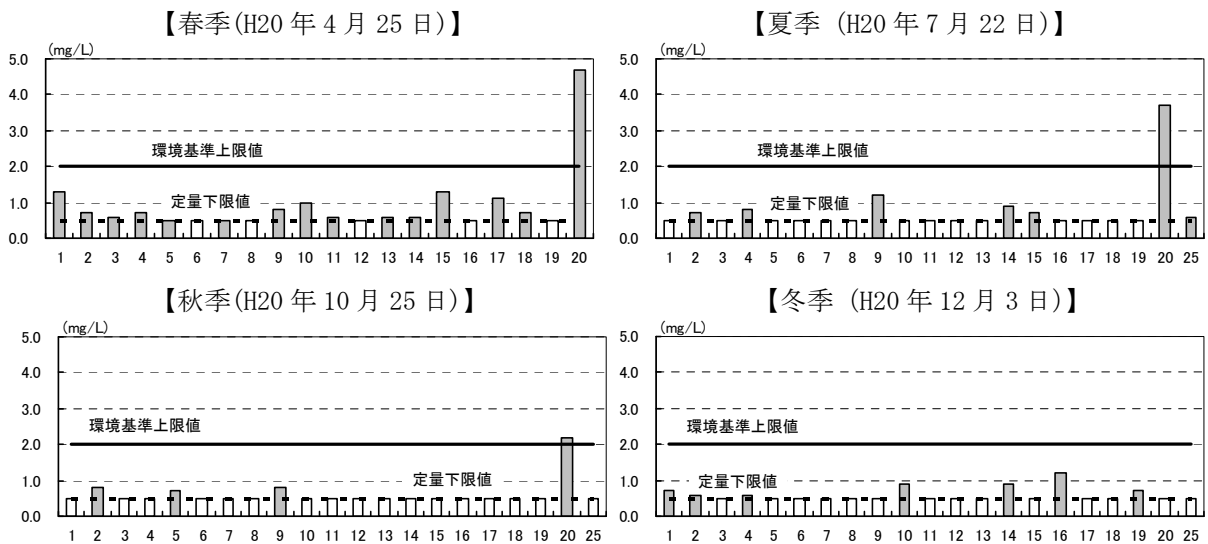
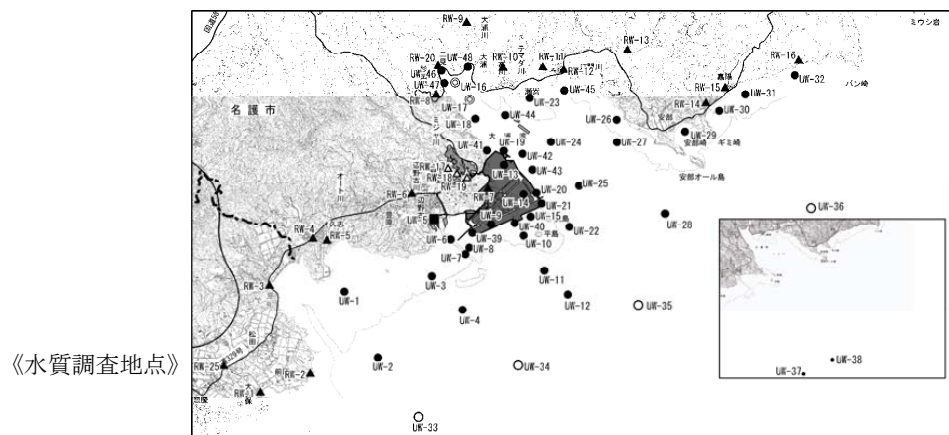


図-6.6.1.33 河川の各調査地点における BOD の調査結果 (平成 20 年度)

注) 1. 調査対象河川のうち、汀間川 (RW-12、13) は環境基準の A 類型に指定されていますが、その他の河川では環境基準の類型指定がなされていないため、参考として河川 A 類型の環境基準を示しました。  
2. 図中で白抜きの棒グラフは、定量下限値 (破線) 未満であることを示します。



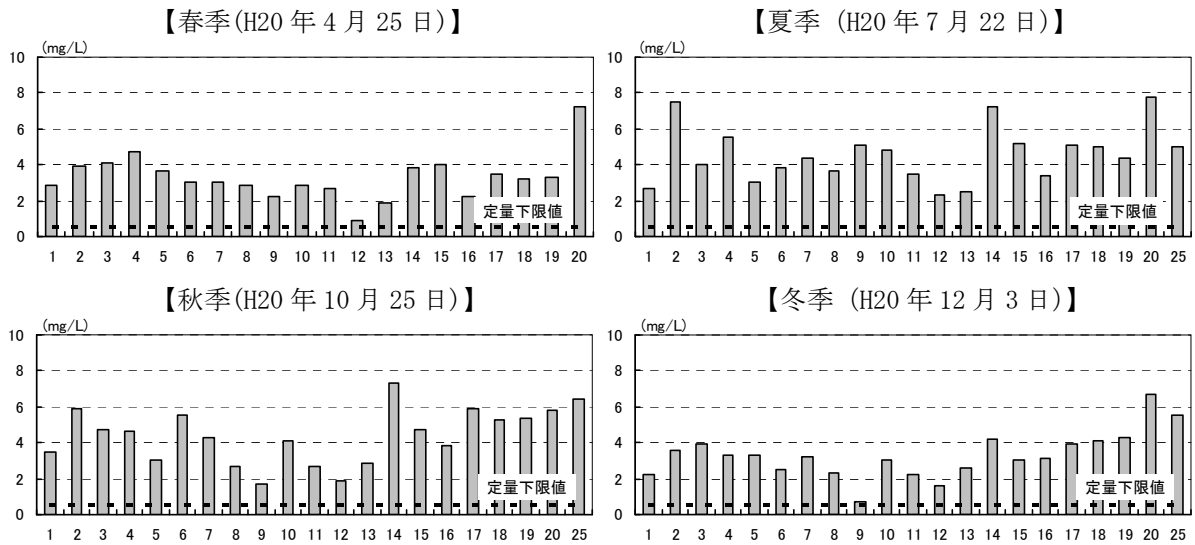


図-6.6.1.34 河川の各調査地点におけるCODの調査結果(平成20年度)

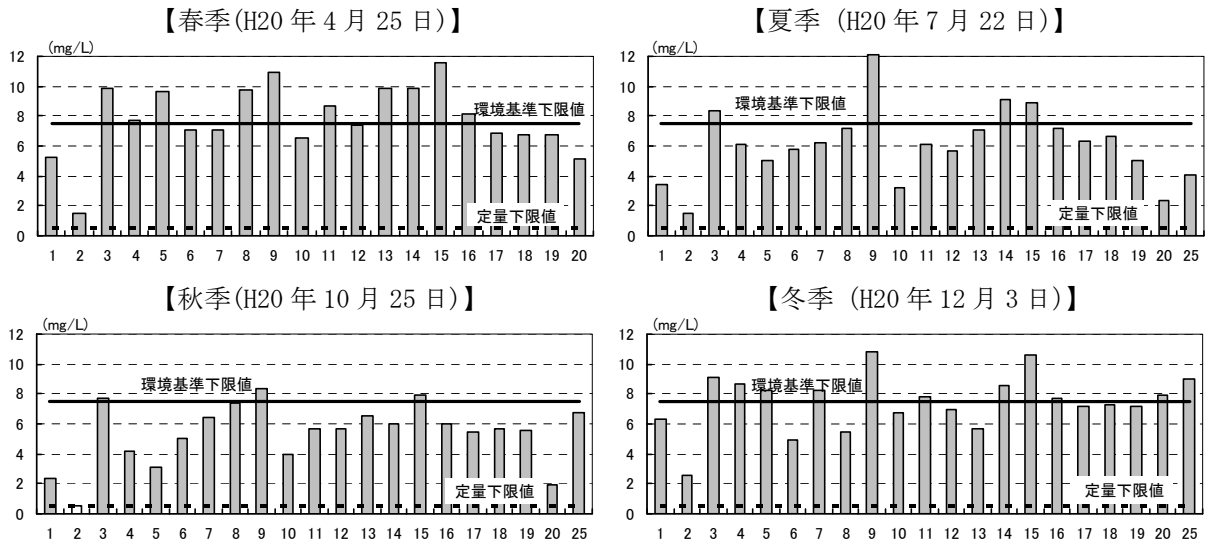
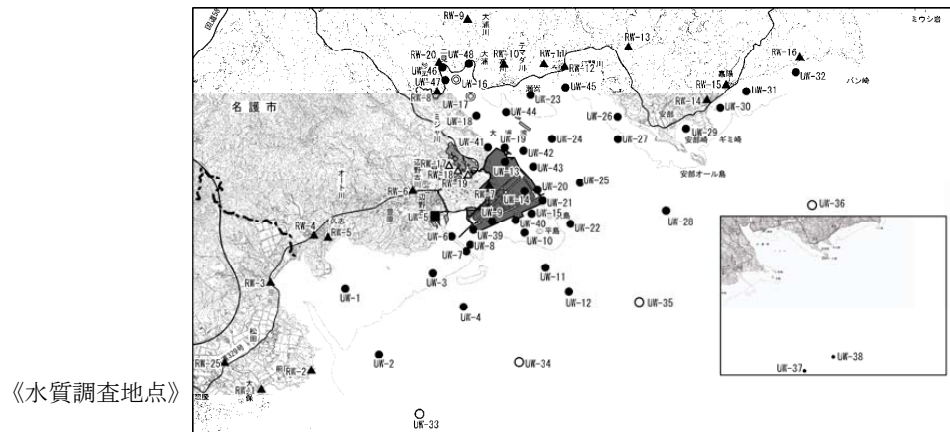


図-6.6.1.35 河川の各調査地点におけるDOの調査結果(平成20年度)

注) 調査対象河川のうち、汀間川(RW-12、13)は環境基準のA類型に指定されていますが、その他の河川では、環境基準の類型指定がなされていないため、参考として河川A類型の環境基準を示しました。



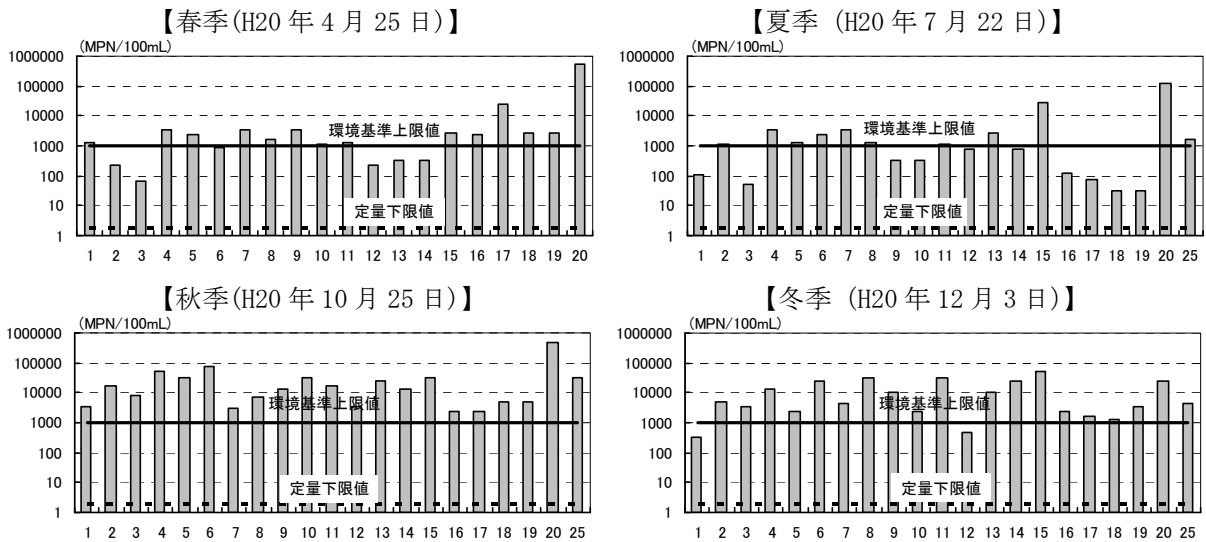


図-6.6.1.36 河川の各調査地点における大腸菌群数の調査結果（平成20年度）

注) 調査対象河川のうち、汀間川 (RW-12、13) は環境基準のA類型に指定されていますが、その他の河川では、環境基準の類型指定がなされていないため、参考として河川A類型の環境基準を示しました。

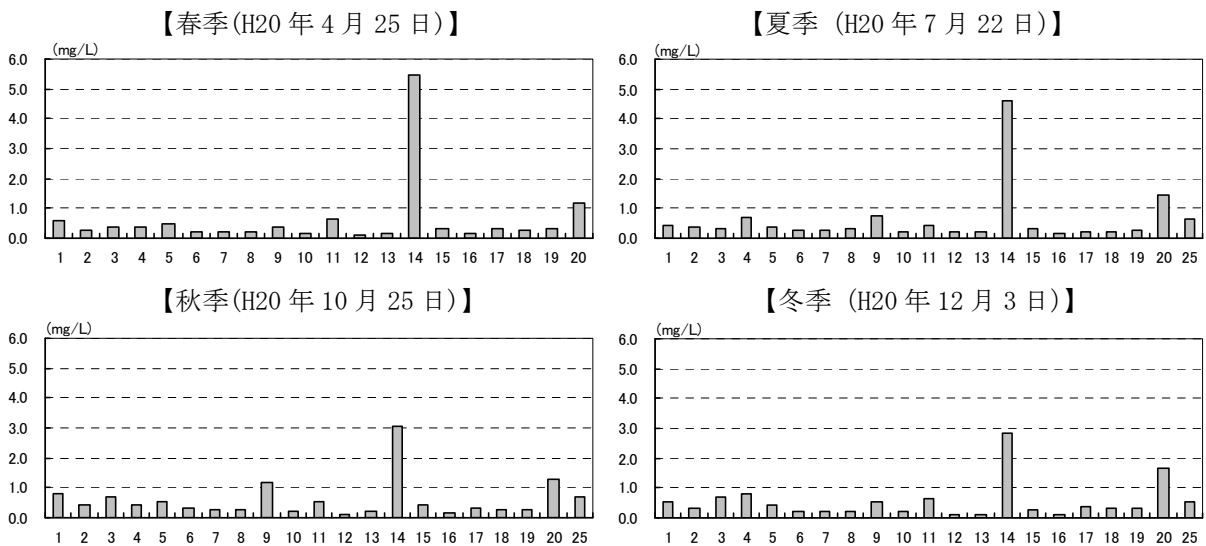
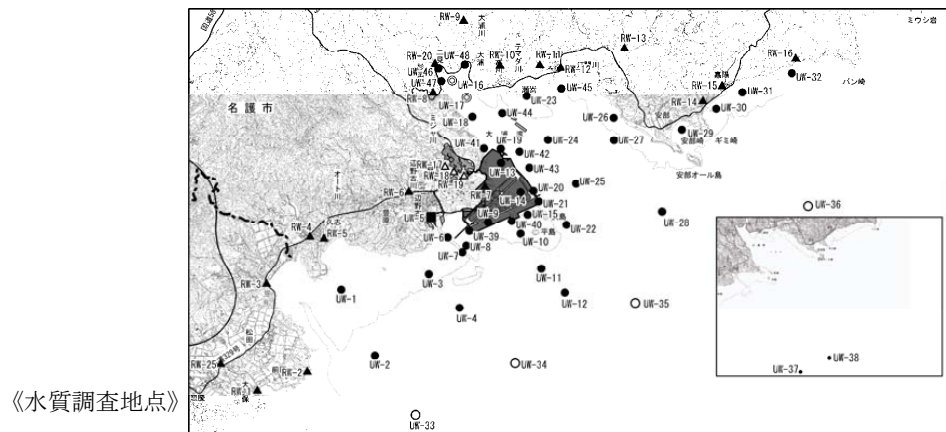


図-6.6.1.37 河川の各調査地点における全窒素の調査結果（平成20年度）



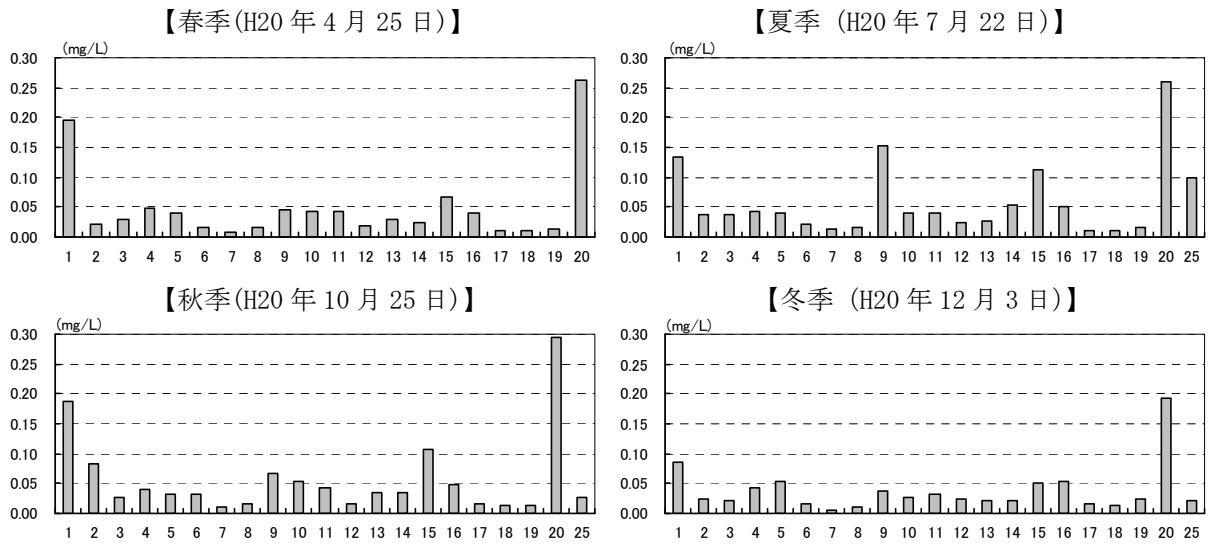
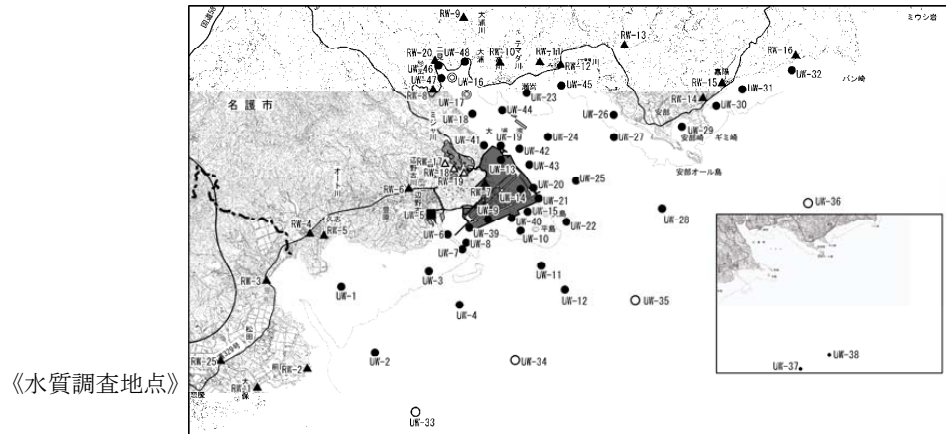


図-6.6.1.38 河川の各調査地点における全燐の調査結果（平成20年度）





c) 河口閉塞の状況

図-6.6.1.39に示した6河川における調査結果を以下に示します。調査の結果は各調査時における平面図（図-6.6.1.40、図-6.6.1.42、図-6.6.1.44、図-6.6.1.46、図-6.6.1.48、図-6.6.1.50参照）及びそれに基づく断面の変化（図-6.6.1.41、図-6.6.1.43、図-6.6.1.45、図-6.6.1.47、図-6.6.1.49、図-6.6.1.51参照）として整理しました。

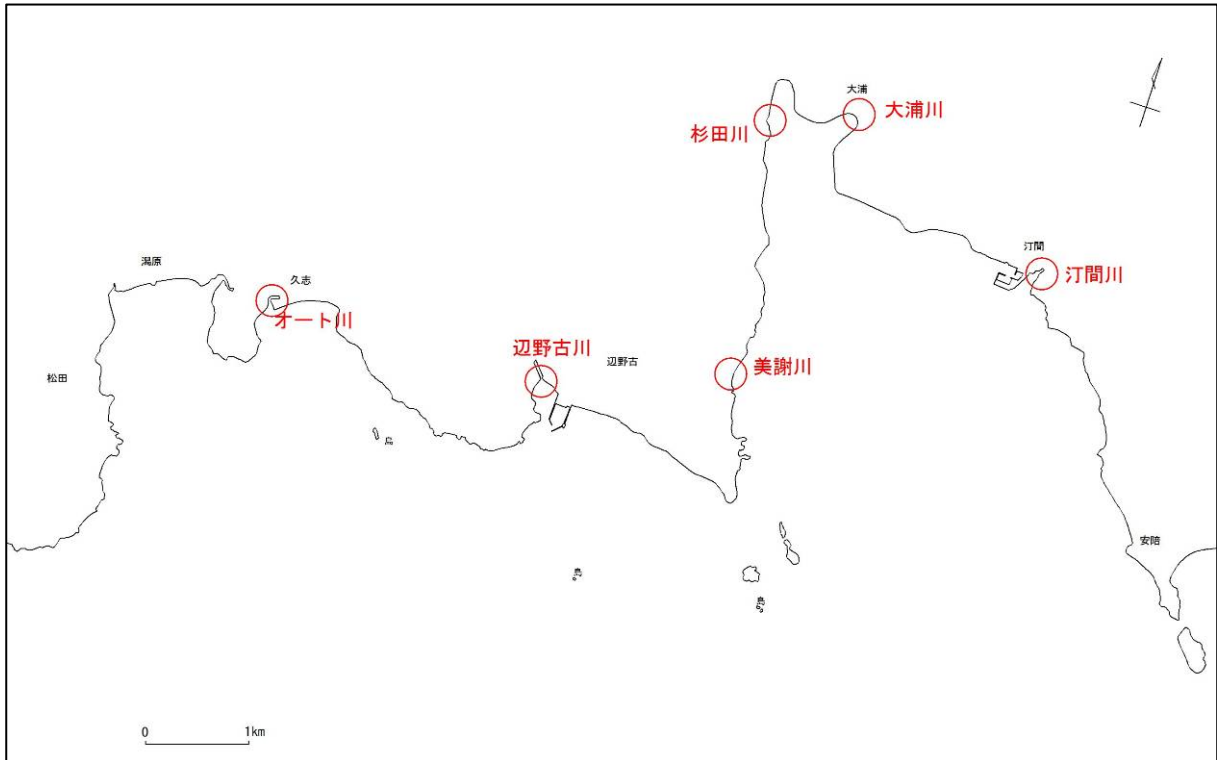


図-6.6.1.39 河口閉塞の調査対象河川

(ア) 汀間川

河川流は右岸よりに流軸が位置し、橋の直下の右岸に河川流によるとみられる凹地地形が形成されています。D.L+0.2mの等高線で示される流軸は、流下するにしたがい河川域のほぼ中央に位置し、左右両岸に砂浜が形成されています。

D.L+0.2m以下の河床幅の平坦面は4月に最も狭く、6月、7月に広くなり、9月から次第に狭くなり、11月にはD.L+0.2m等高線も閉じて、最下流部がより浅い河床となっています。橋の直下は常にD.L-0.2mもしくはD.L-0.4m等高線で表される凹地が存在しており、左右両岸に存在する砂浜は9月から10月にかけて平滑化してきていました。期間中に河口閉塞により河川からの流下が妨げられたことはありませんでした。

【汀間川河口部の状況】



(平成20年4月)



(平成20年9月)

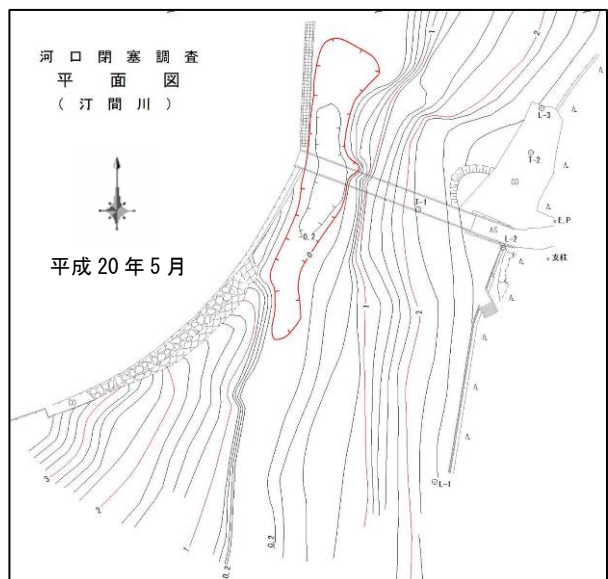
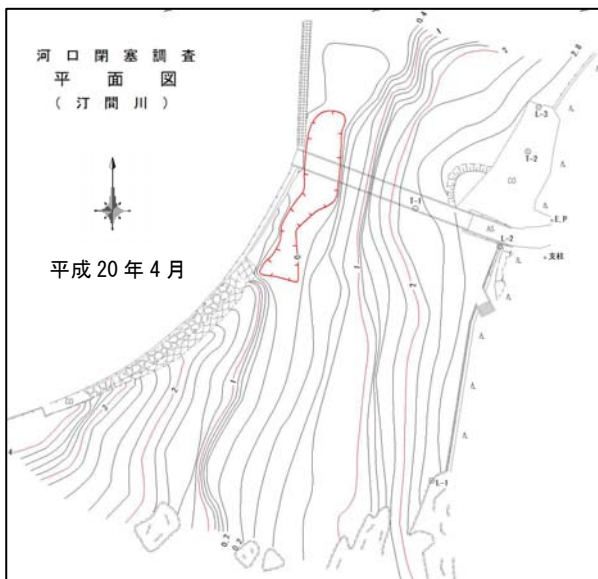


図-6.6.1.40(1) 汀間川河口部の平面図

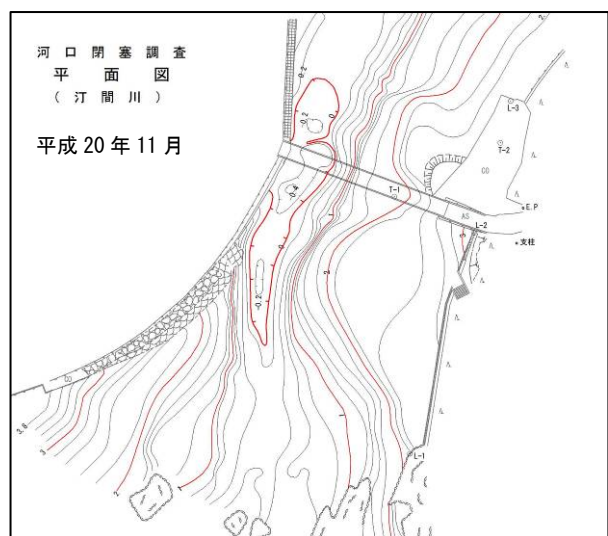
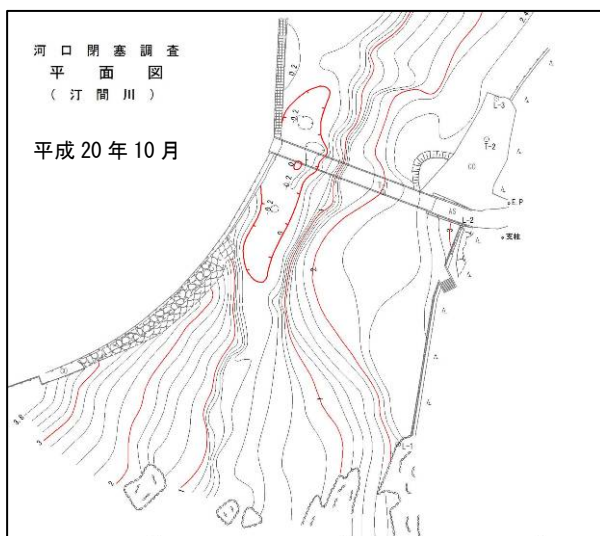
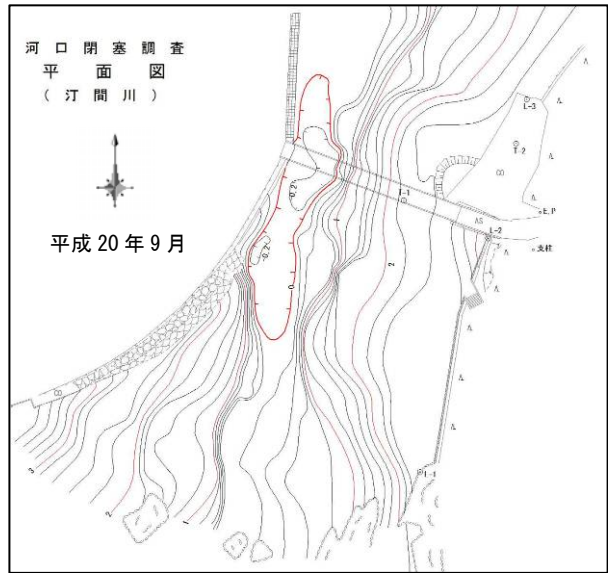
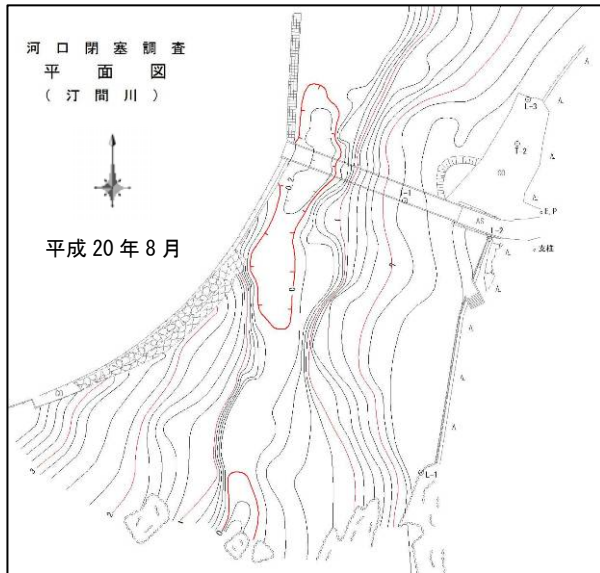
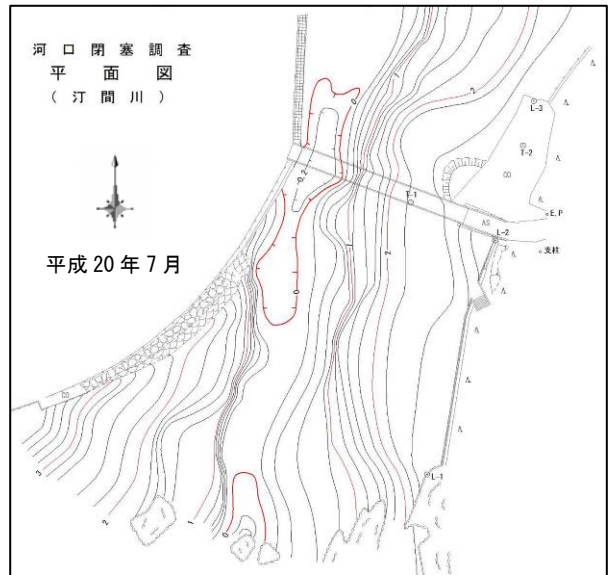
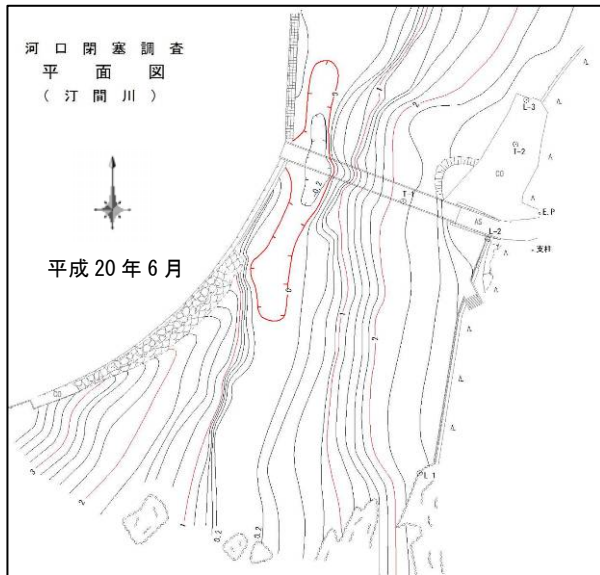


図-6.6.1.40(2) 汀間川河口部の平面図

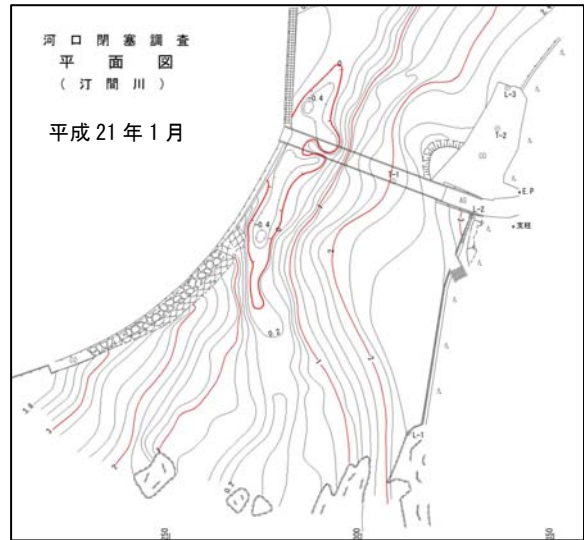
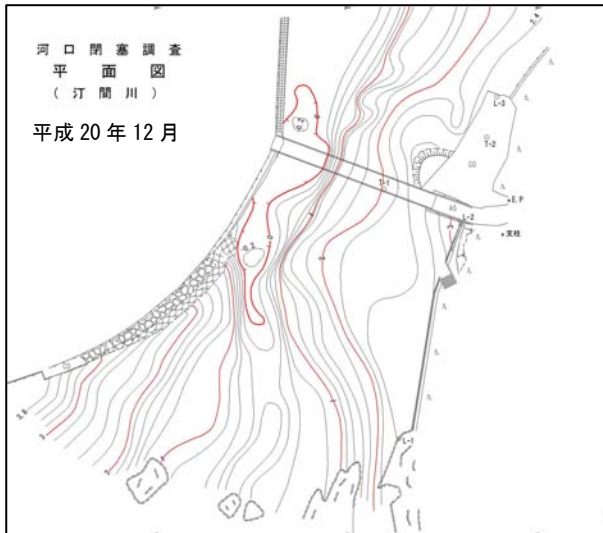


図-6.6.1.40(3) 汀間川河口部の平面図

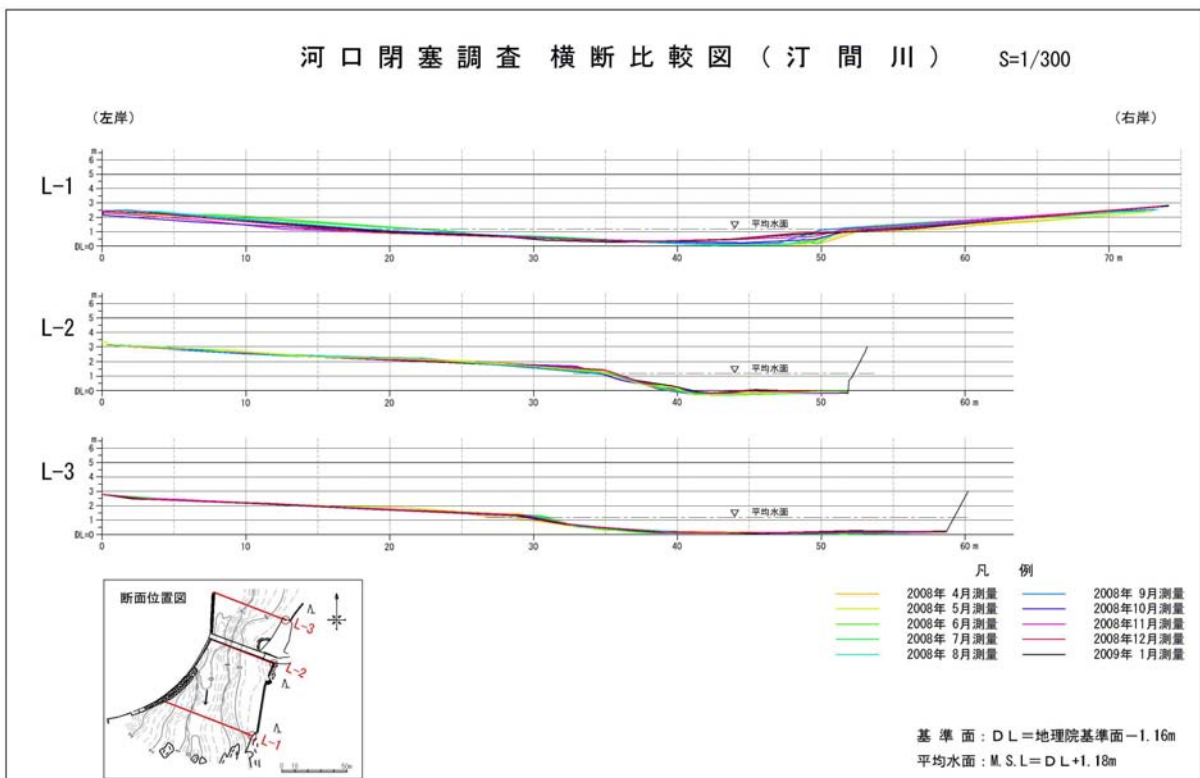


図-6.6.1.41 汀間川における断面の変化

(イ) 大浦川

流軸はやや右岸よりに位置し、D.L+0.4mの等高線で表現される凹地が約100m広がっています。干潮時には干潟が形成され、下流方向に開いている+0.6mの等高線よりも潮位が低下すると、河川水は干潟上をわずかに流れる状態となります。

4月に橋（大浦橋）の上流と下流に分かれて存在していたD.L0mの凹地は、5月から6月に連続し、7月には再び分断され、7月以降は次第に縮小していきました。また、左岸側に分布する砂浜は、4月から6月にかけて成長傾向にありましたが、9月には橋の上流で等高線のえぐれが生じ、縮小傾向がみられました。また、10月には、大浦橋の上流と下流に分かれて存在しているD.L0m等高線で表示される凹地にあった-0.2mのくぼみがなくなり、大浦橋付近から下流の左岸に砂が堆積していました。期間中に河口閉塞により河川からの流下が妨げられたことはありませんでした。

【大浦川河口部の状況】



(平成20年4月)



(平成20年9月)

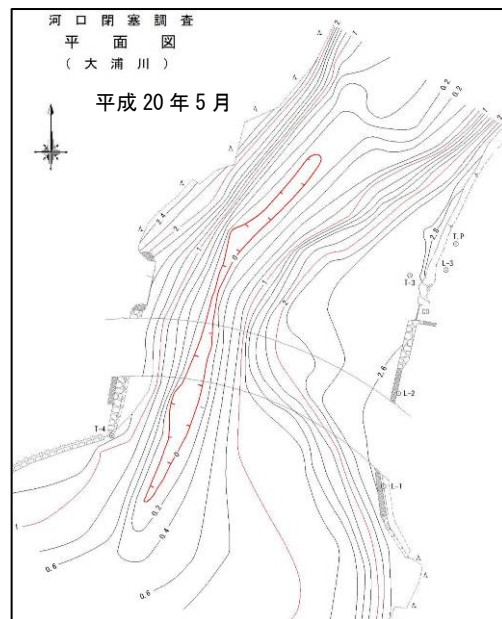
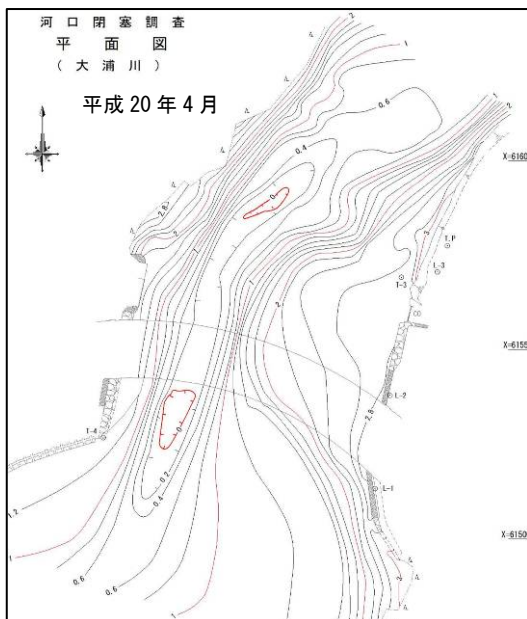


図-6.6.1.42(1) 大浦川河口部の平面図

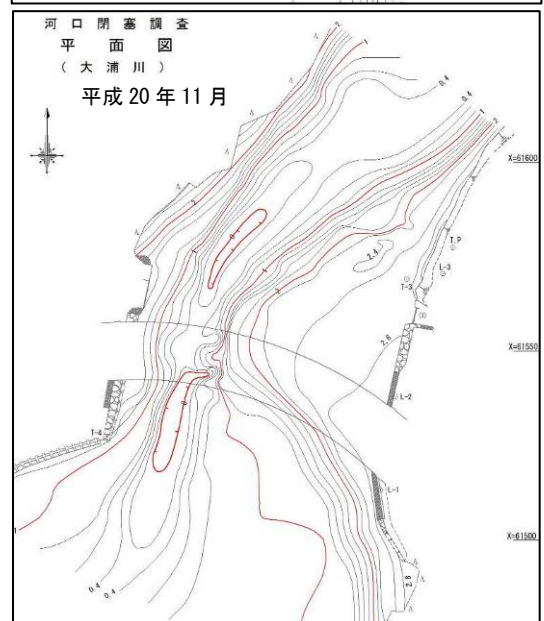
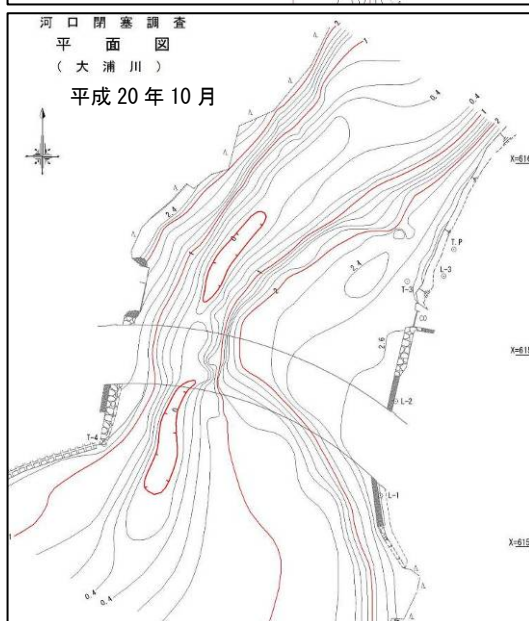
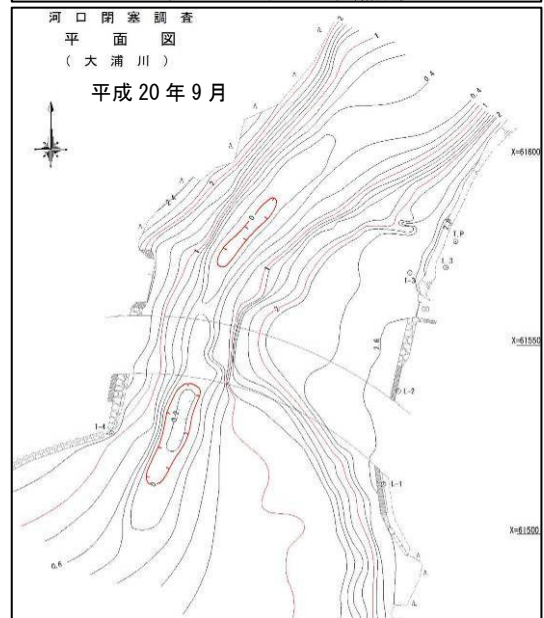
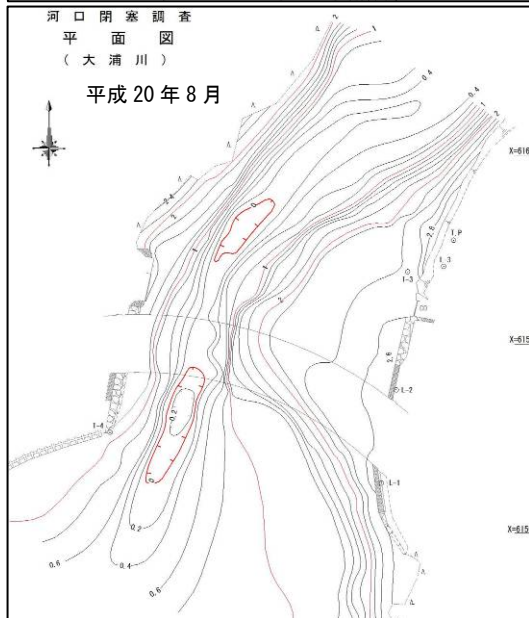
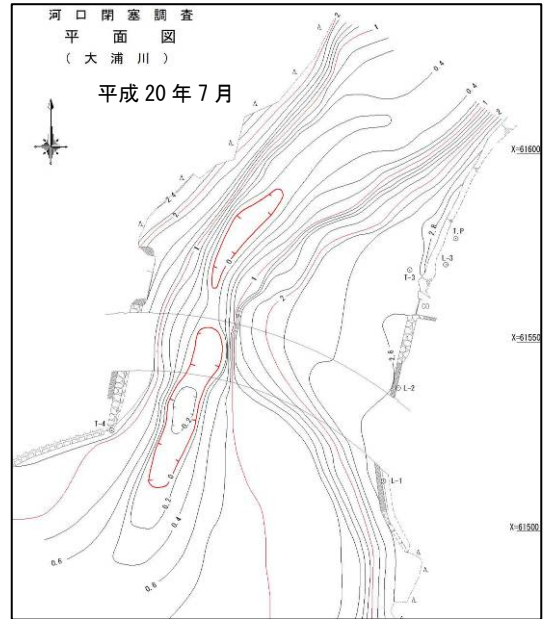
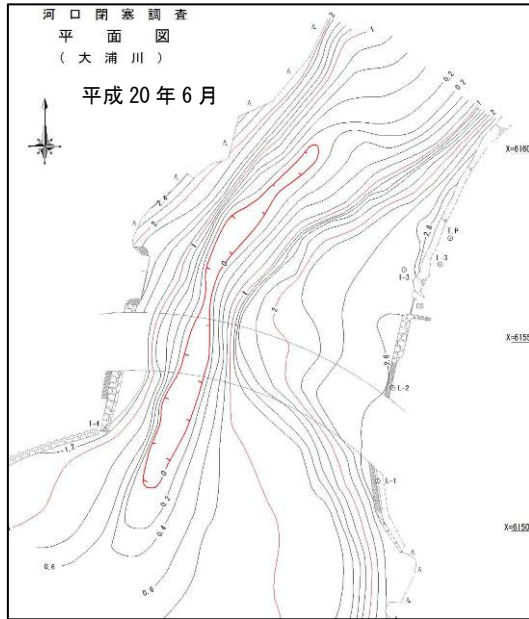


図-6. 6. 1. 42(2) 大浦川河口部の平面図

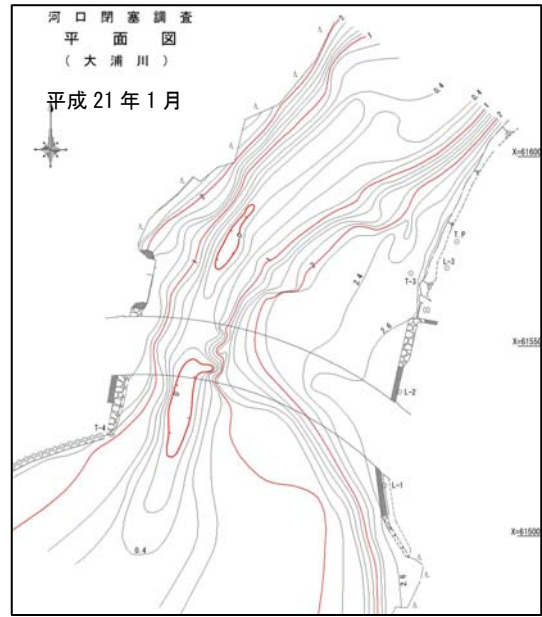
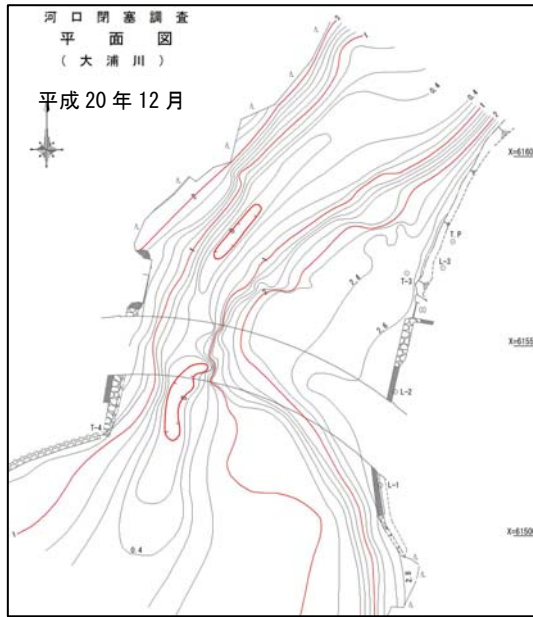


図-6. 6. 1. 42(3) 大浦川河口部の平面図

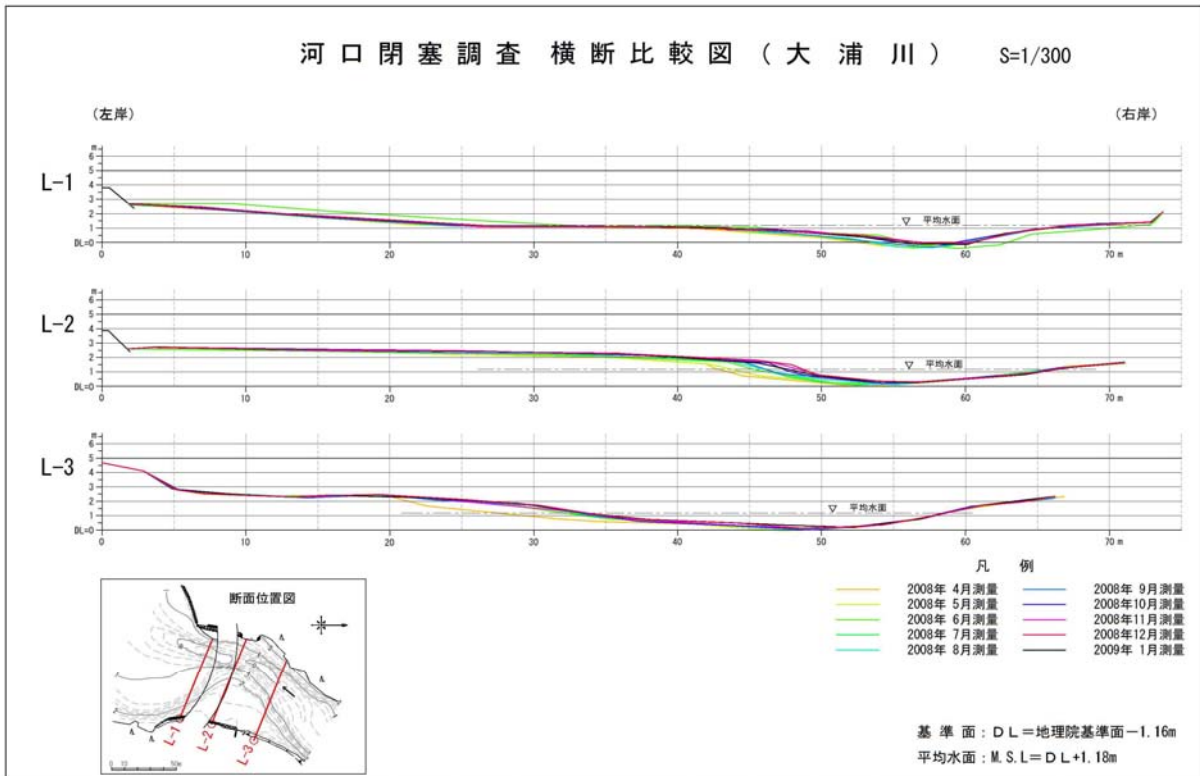


図-6. 6. 1. 43 大浦川における断面の変化

(ウ) 杉田川

河川流は小さな砂州地形により北方向に屈曲しています。下流部の河床高はD.L+1mと上流より高くなっており、潮位がこれ以下になると、ほぼ河口閉塞の状況となります。

流軸は調査時期を通じてほぼ同一でしたが、4月にはD.L+0.6~+1.2mであった河床高が、5月には洗掘によりD.L+0.6~+1mとなっていました。また、5月には右岸側の砂州地形が侵食を受け、D.L+2mの高まりがなくなり平坦化し、7月以降は河川からの洗掘による法面の崩れがみられました。砂州状の地形は東側が海に面しているため、波浪の影響を直接受け、等高線が測量ごとに変化していました。期間中に河口閉塞により河川からの流下が妨げられたことはありませんでした。

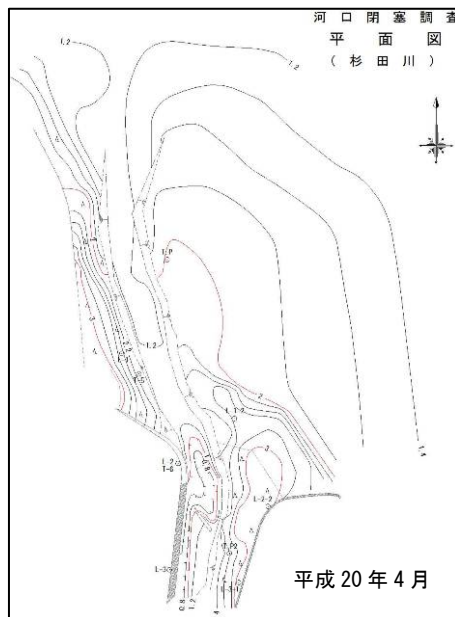
【杉田川河口部の状況】



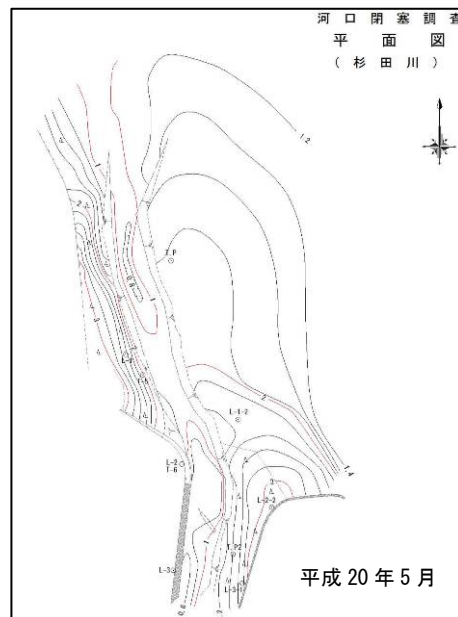
(平成20年4月)



(平成20年9月)



平成20年4月



平成20年5月

図-6.6.1.44(1) 杉田川河口部の平面図



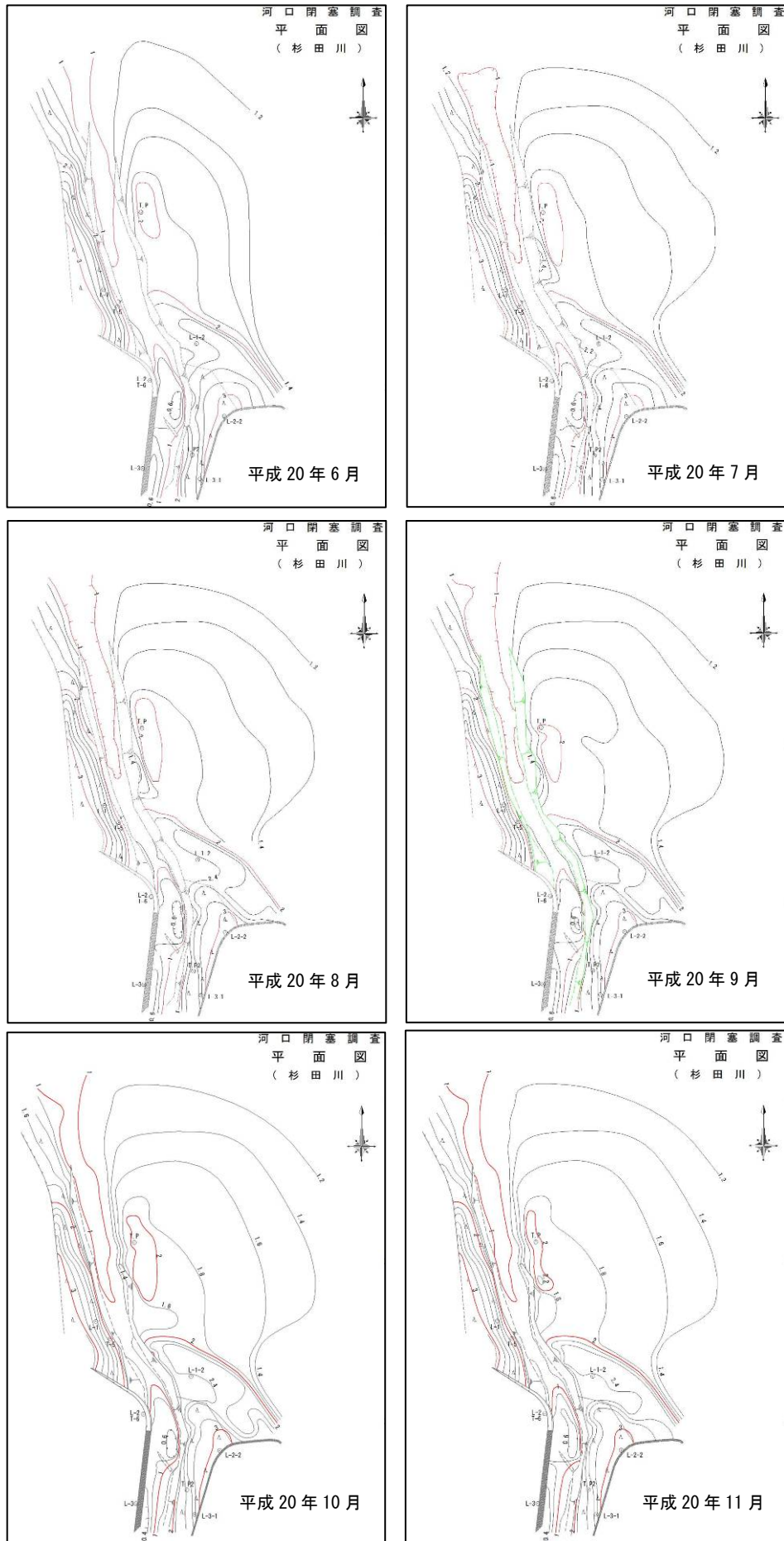


図-6. 6. 1. 44(2) 杉田川河口部の平面図

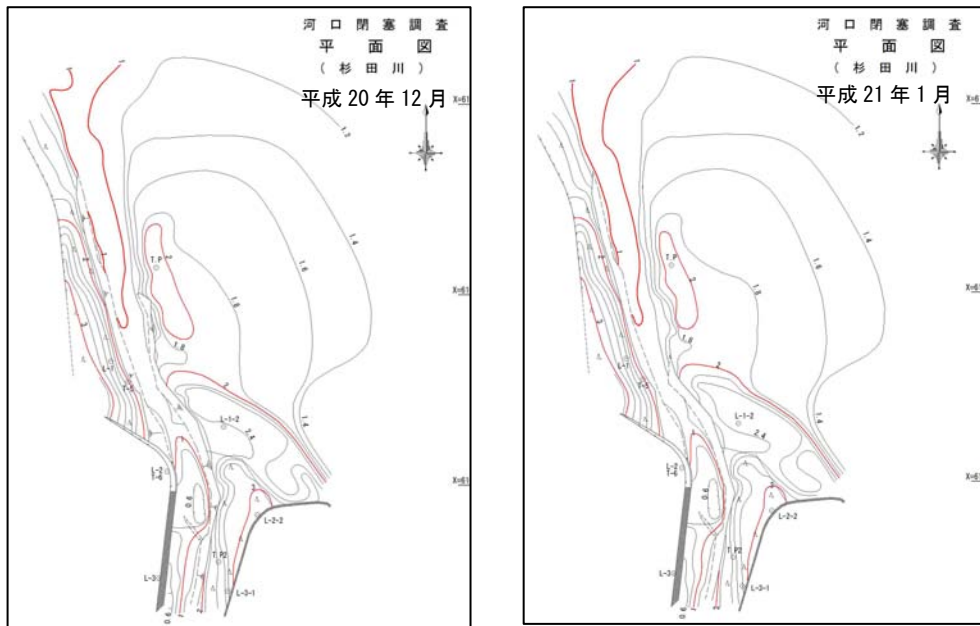


図-6. 6. 1. 44(3) 杉田川河口部の平面図

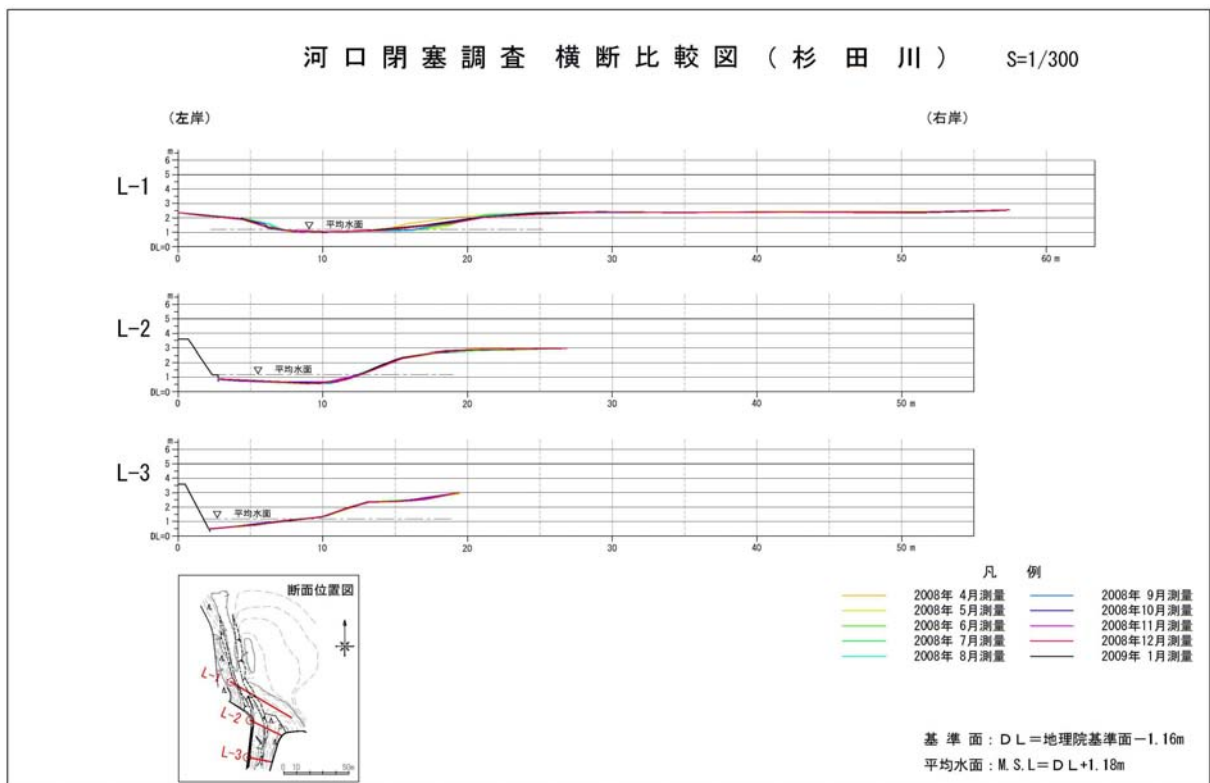


図-6. 6. 1. 45 杉田川における断面の変化

(エ) 美謝川

河川部の両岸は急斜面（崖）ですが、海浜部に入ると急激に緩やかな勾配となり、D.L. 0m 等高線で表される凹地が形成されています。調査対象河川の中では最も変化が大きく、上流のダムからの放流の影響を受けていると考えられます。

4月にはD.L. +2m の等高線によって海域との間が遮蔽されており、大潮の満潮時にもほとんど河口閉塞の状況にありました。このような状態が7月まで続きましたが、8月には海岸に明確な洗掘地形が認められ、9月には流軸を変化させながらさらに洗掘が続き、D.L. +1m の凹地が生じていました。10月になると、ほぼ河口閉塞の状況となり、11月にはD.L.+2m 等高線に切れ目が入り、わずかながら河口が開いていました。また、左岸に広がる砂浜が、4月から5月にかけて侵食により勾配が急になるとともに、東側（大浦湾側）の岩礁まで弓状に伸びていたD.L. +0.2m の等高線が直線的に変化しました。

【美謝川河口部(海浜部)の状況】



(平成 20 年 4 月)



(平成 20 年 9 月)

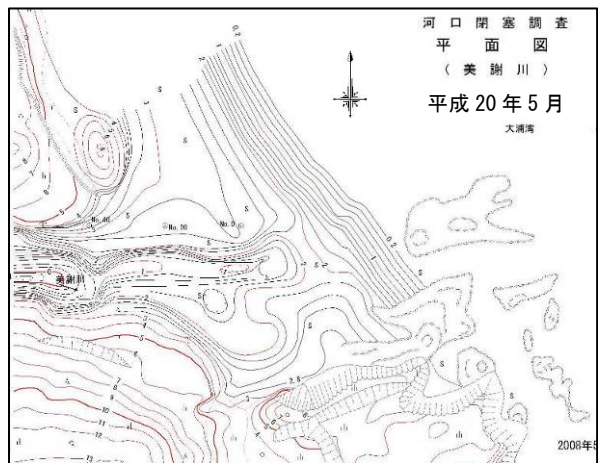
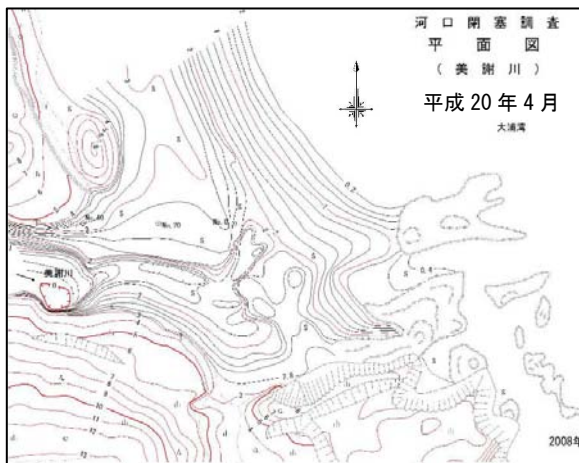


図-6. 6. 1. 46(1) 美謝川河口部の平面図

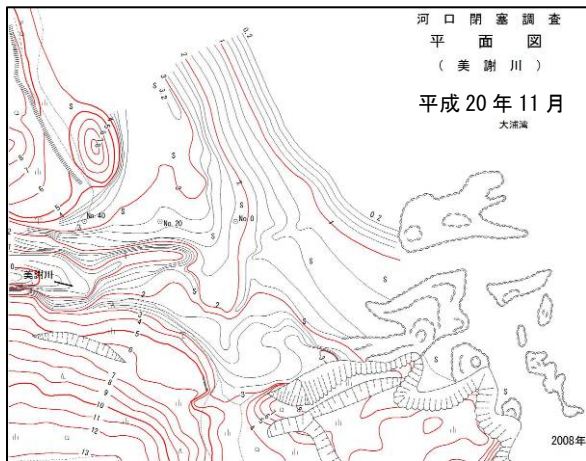
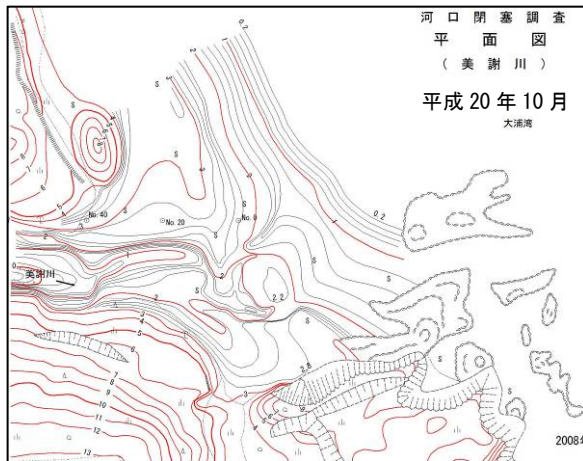
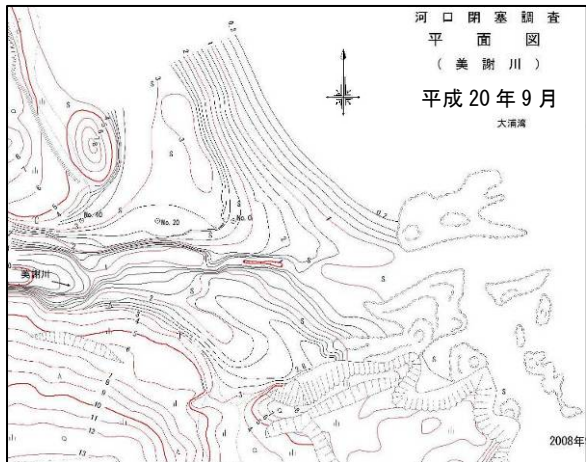
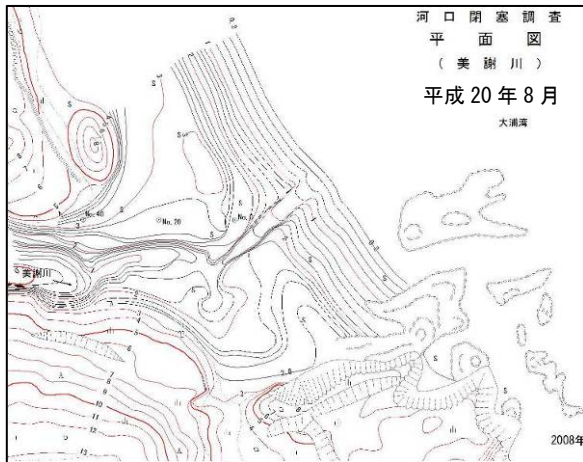
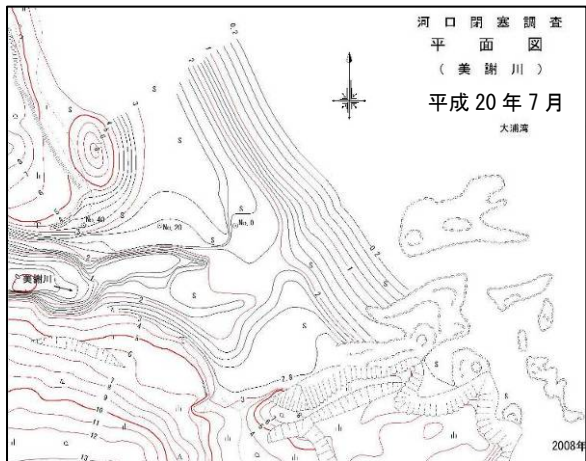
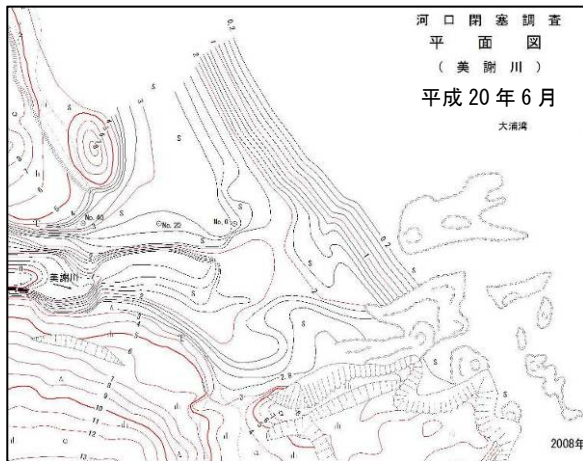


図-6. 6. 1. 46(2) 美謝川河口部の平面図

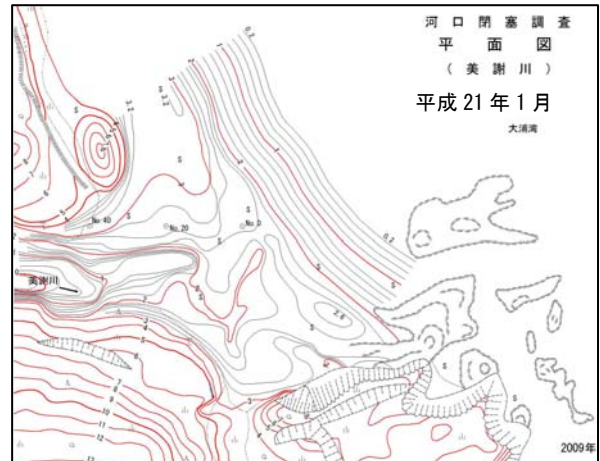
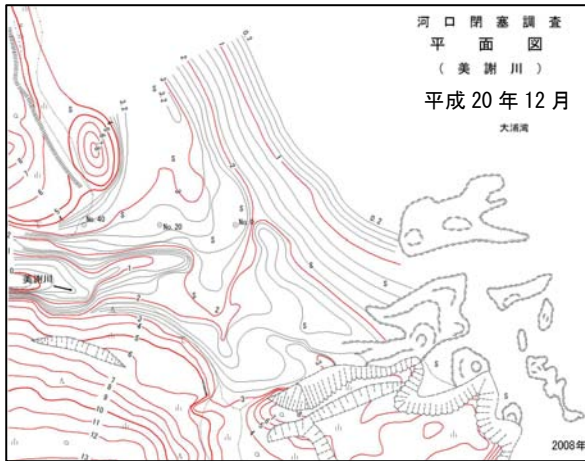


図-6.6.1.46(3) 美謝川河口部の平面図

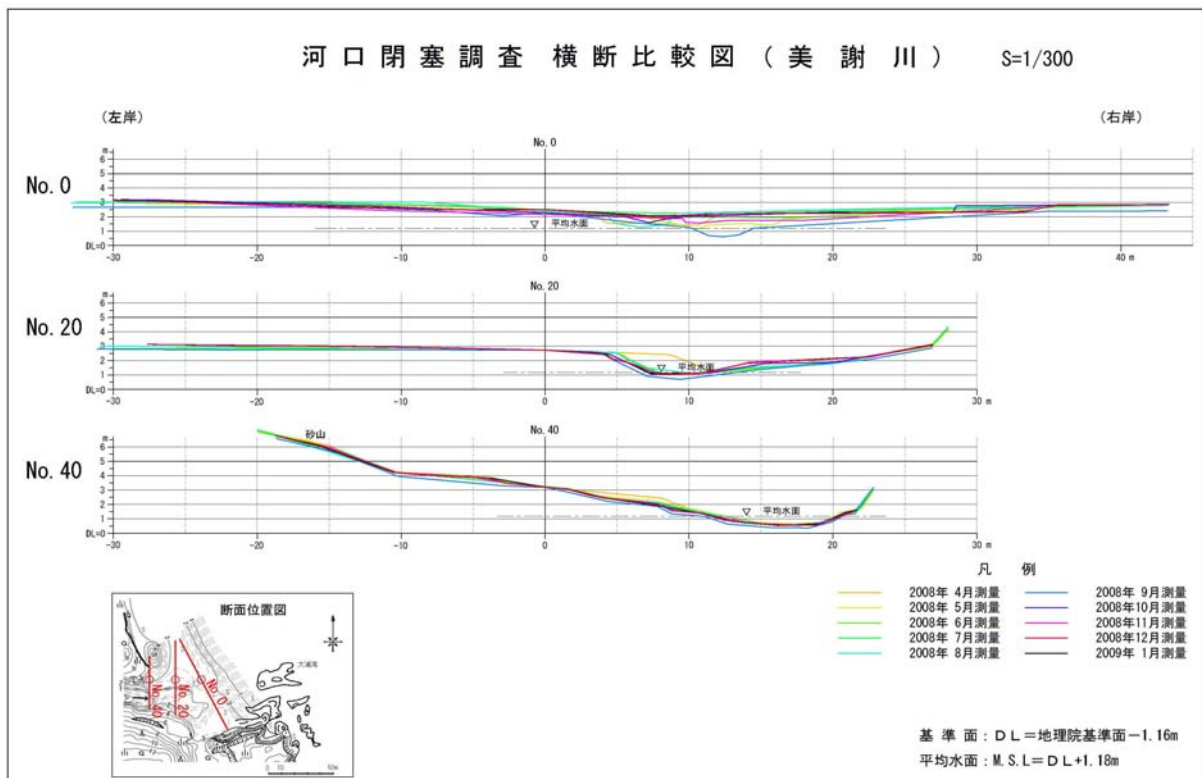


図-6.6.1.47 美謝川における断面の変化

(オ) 辺野古川

河川流は左岸側の護岸に沿って流下しており、護岸の角には凹地が形成されていますが、そこから海域へ向かう河床は D.L. +1m でほぼ平坦で、潮位が+1m 程度になると海水の侵入がなくなります。右岸側を中心に干潟が形成されており、河口閉塞を示すような地形の高まりはありませんが、干潮時の河川流はわずかにみられます。

D.L. +1m 等高線で挟まれる河床幅は 8 月に最も狭くなり、9 月には再び拡大する傾向にありました。全体的に変化は小さかったですが、右岸側では 5 月に広がった D.L. +1.8~+2m の等高線が次第に屈曲し、9 月には右岸の岩の上流側で D.L. +2.2m 付近まで洗掘を受けていました。河川水は干潮時には干潟上を薄く広がるように流下しますが、期間中に河口閉塞により河川からの流下が妨げられたことはありませんでした。

【辺野古川河口部の状況】



(平成 20 年 4 月)



(平成 20 年 9 月)

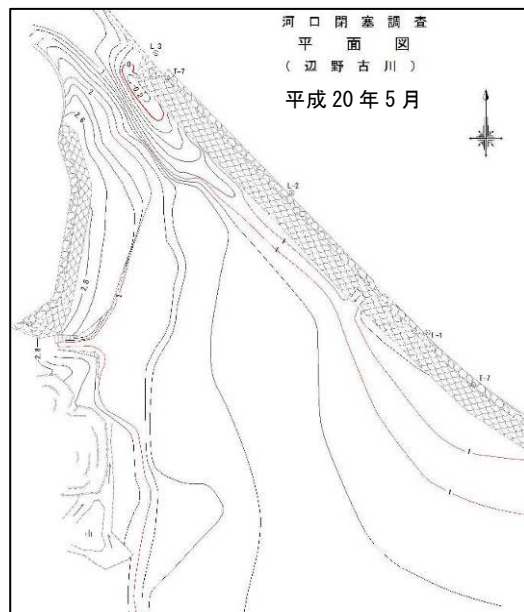
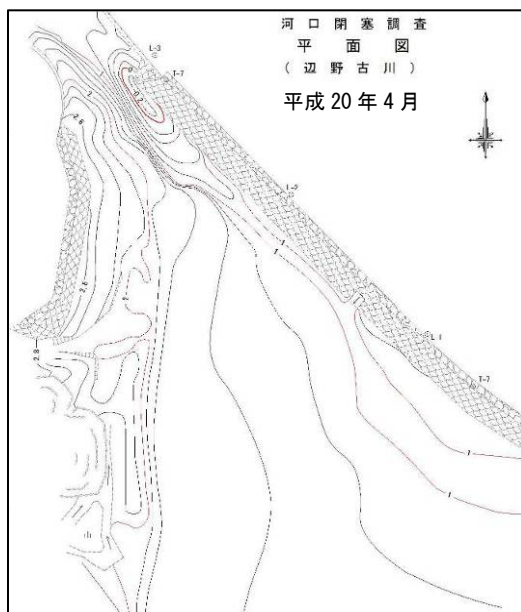


図-6. 6. 1. 48(1) 辺野古川河口部の平面図

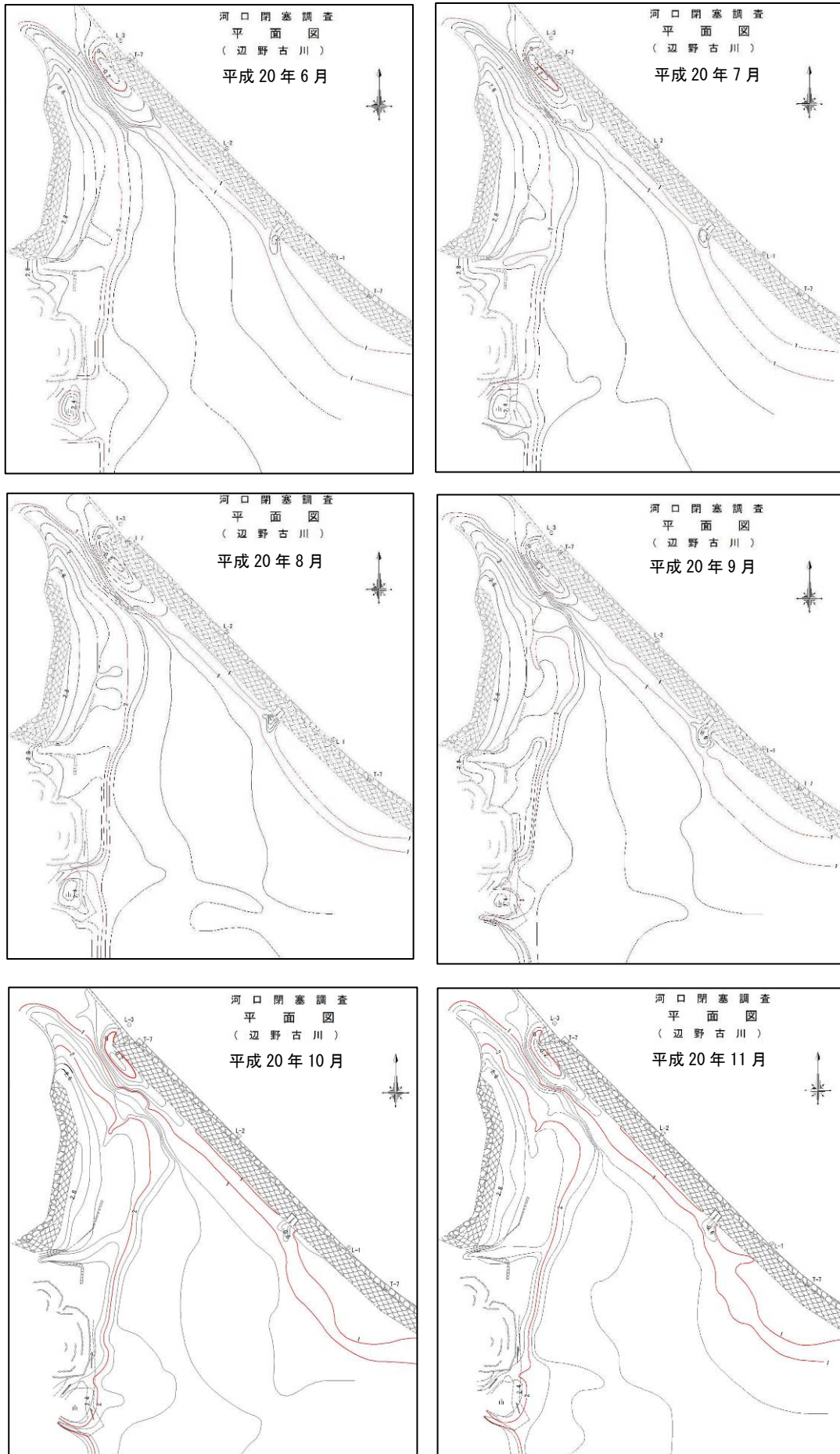


図-6. 6. 1. 48(2) 辺野古川河口部の平面図

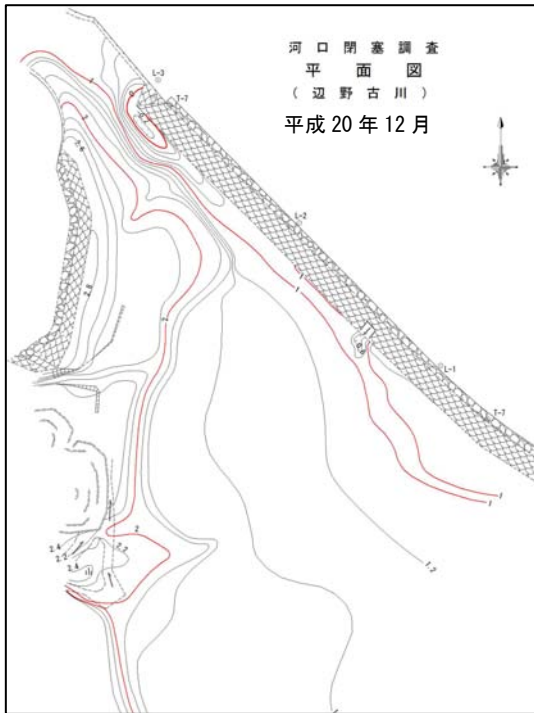


図-6.6.1.48(3) 辺野古川河口部の平面図

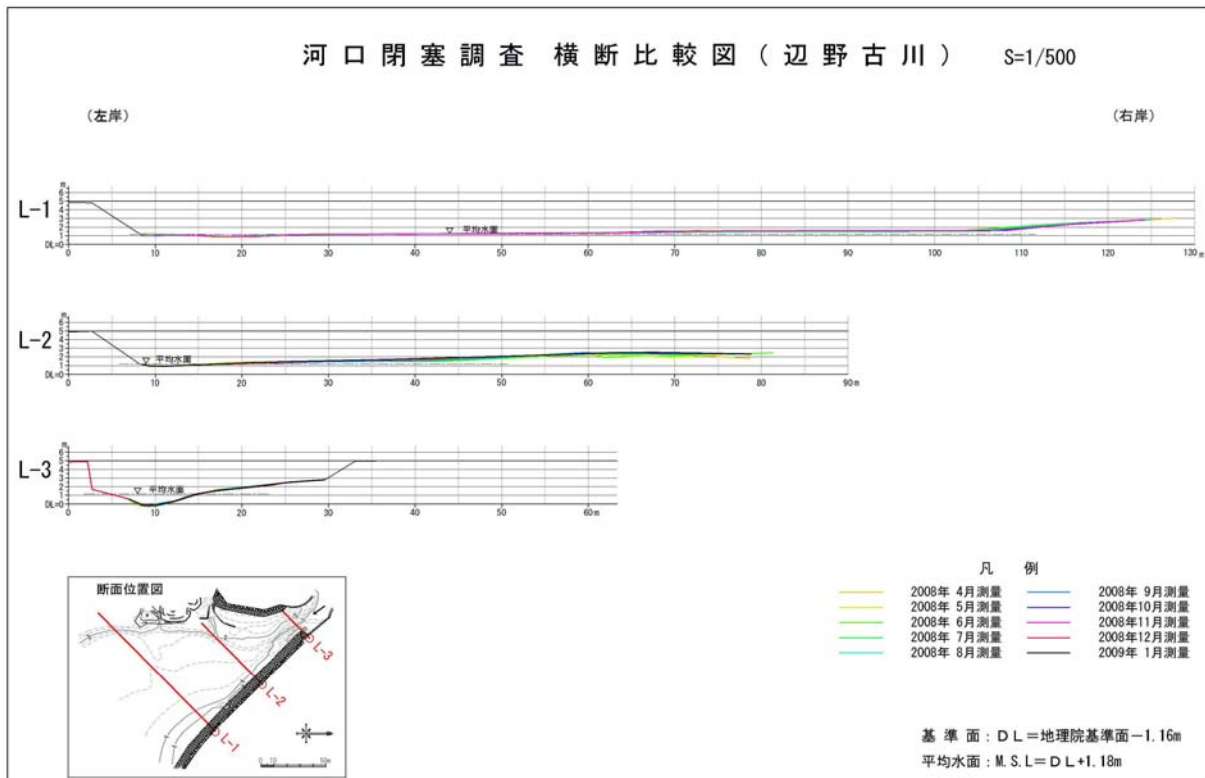


図-6.6.1.49 辺野古川における断面の変化



(カ) オート川

流軸は左岸から張り出した砂州に阻害され、屈曲しながら海域に広がる干潟に流入しています。干潮時には河川水は干潟上をわずかに流れる程度です。河床はほぼ平坦で、D.L. +1.4m の等高線が海に向けて開いていることから、平均水面レベルの潮位 (+1.18m) で海と連続することはありません。

6月まで開いていた D.L. +1.4m の等高線は7月に閉塞したため、7月以降は海に向けてより高い地盤となりました。左岸側の高まりは調査時期を通じて縮小傾向にありました。一方、右岸側の高まりは6月まで成長していましたが、その後は縮小しました。河川水は左右両岸の砂州の張り出しを縫って蛇行しながら流下し、8月の干潮時には流路が判然としませんでしたが、満潮時には地表流として流下していました。

【オート川河口部の状況】



(平成 20 年 4 月)



(平成 20 年 9 月)

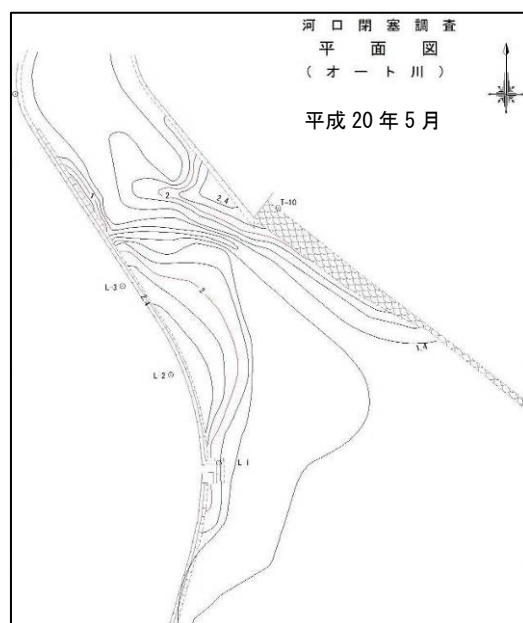
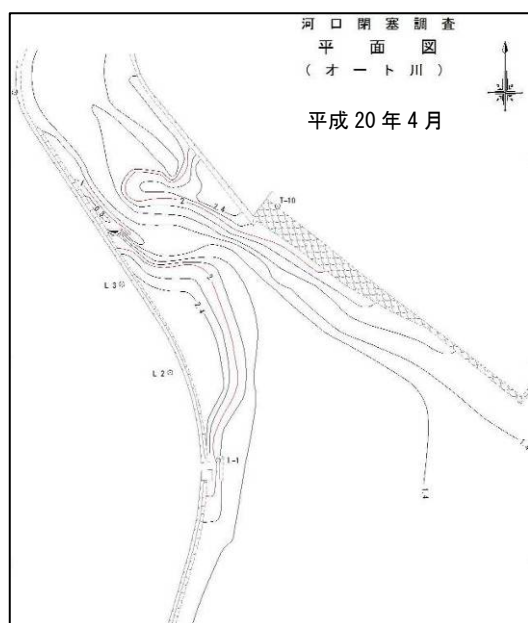


図-6. 6. 1. 50(1) オート川河口部の平面図

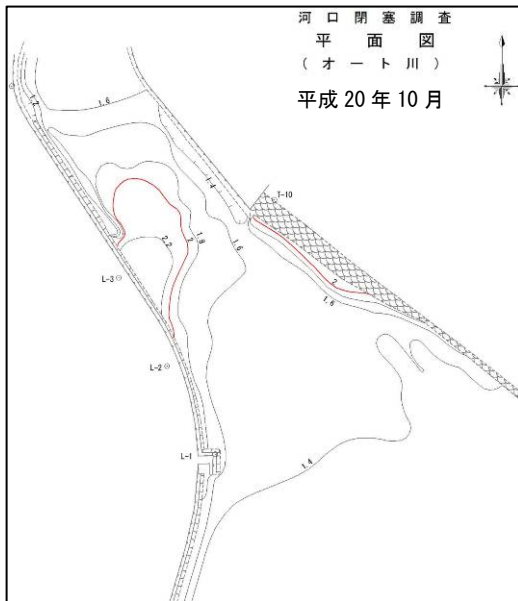
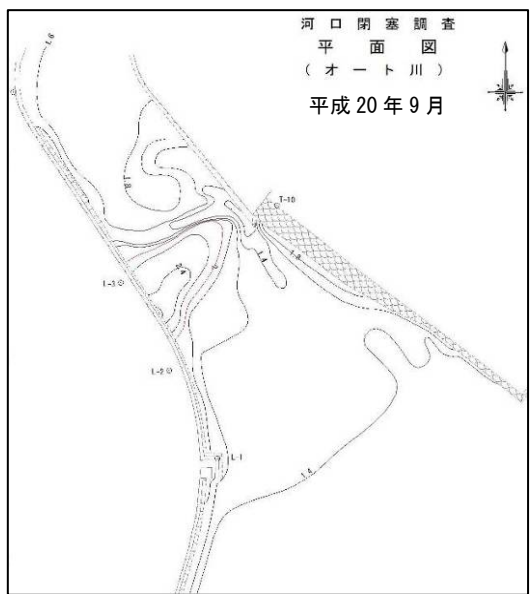


図-6.6.1.50(2) オート川河口部の平面図



図-6.6.1.50(3) オート川河口部の平面図

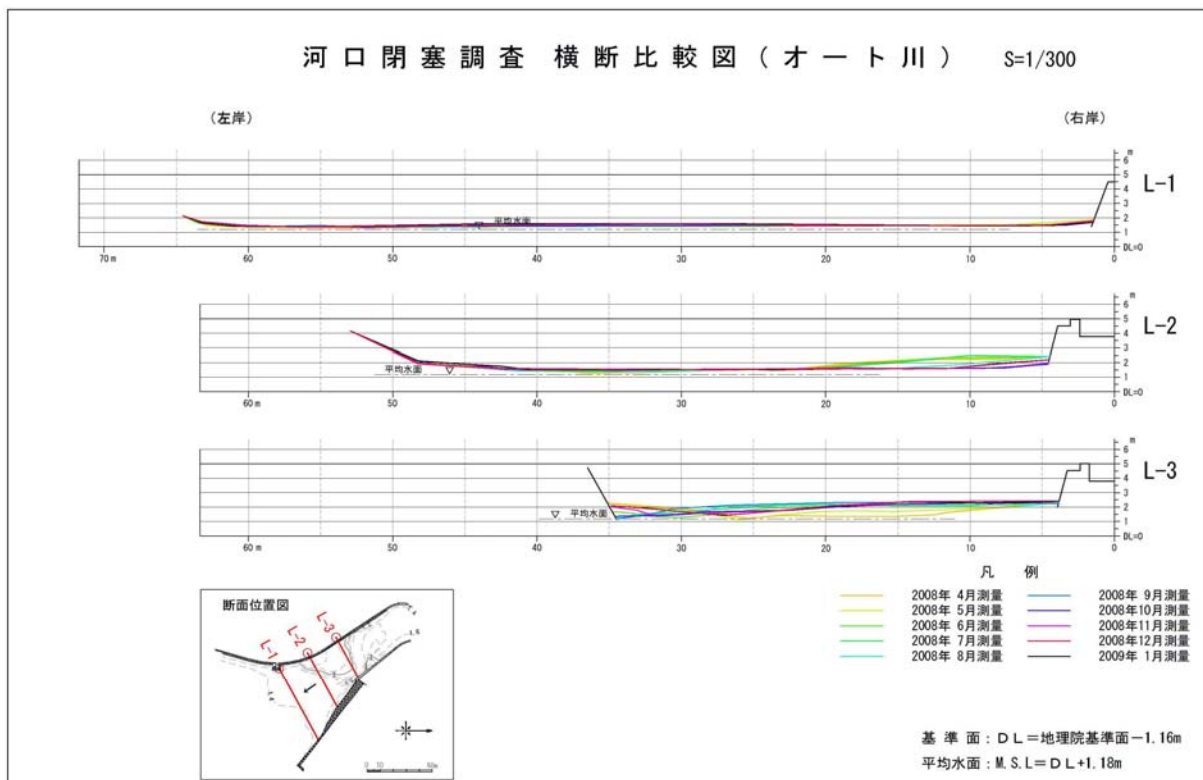


図-6.6.1.51 オート川における断面の変化